

§1 一般事項

- 本配筋標準図(2020年版)は、(一社)日本建設業連合会と(一社)日本建築構造技術者協会が協働で作成した鉄筋コンクリート造の配筋標準図である。
- 本配筋標準図は、
 - 「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(平成31年版)」(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修)
 - 「鉄筋コンクリート構造計算規程・同解説(2018版)」(日本建築学会)
 - 「建築工事標準仕様書・同解説JASS5鉄筋コンクリート工事(2018年版)」(日本建築学会)
 - 「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説(平成22年版)」(日本建築学会)
 を参考に作成している。
- 本配筋標準図は表1-1に示すコンクリートおよび鉄筋を使用する鉄筋工事に適用する。高強度せん断補強筋を使用する場合は、構造図(伏図、軸組図、部材リスト、詳細図等の図面を示す)による。
- 構造図に記載された事項は、本配筋標準図に優先して適用するものとする。
- 本配筋標準図において、「監理者に確認」、「監理者に承認」と記載された内容は、監理者が設計者と協議し、設計者が承認した結果を示す。
- 図表中の寸法の値は最小値を示し、当該寸法以上を確保することを原則とする。(～程度、～以下、◎、◎と表記しているものを除く)
- 本配筋標準図に☒印を記した項目は、適用しない。
- 杭に関する事項は、構造図による。

表1-1 適用範囲

1. コンクリート	普通 $F_c=18N/mm^2$ 以上 $60N/mm^2$ 以下 軽量 $F_c=18N/mm^2$ 以上 $36N/mm^2$ 以下 SD390の鉄筋を使用する場合は $F_c=21N/mm^2$ 以上 SD490の鉄筋を使用する場合は $F_c=24N/mm^2$ 以上 SD490の鉄筋を使用する部位に軽量コンクリートを用いない。		
2. 鉄筋	規格番号	規格名称	種類の記号
	JIS G 3112	鉄筋コンクリート用棒鋼	SD295A, SD295B SD345, SD390 SD490
異形鉄筋はD41以下とする。			
3. 溶接金網および鉄筋格子	溶接金網および鉄筋格子は、JIS G 3551(溶接金網および鉄筋格子)に適合するものを使用する。		

§2 鉄筋加工共通事項

2-1 折曲げ形状・寸法

- 鉄筋の折曲げ加工は常温加工とする。
- 折曲げ内法直径を表2-1の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の折曲げ試験を実施するかメーカー発行の性能試験証明書を確認した上で、監理者の承認を得ること。
- SD490の鉄筋を90°を超える曲げ角度で折曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、監理者の承認を得ること。

表2-1 折曲げ形状・寸法

折曲げ形状	折曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法直径(D)
180° フック	180°	SD295A SD295B SD345	D16以下	3d以上
				D19~D41
135° フック	90°	SD390	D41以下	5d以上
				SD490
90° フック	90°	SD490	D29~D41	6d以上

▽は折り曲げ開始点を示す。
この開始点位置は、以下の図面において共通とする。

- (注)
- 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは、135°フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。
 - 90°未満の折曲げ内法直径は構造図による。構造図に記載のない場合は、表2-1の90°フックと同じとする。

2-2 鉄筋のフック

- 次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。(図中◎印)
(1) 柱の四隅または梁の出隅および下端筋の両側にある主筋を重ね継手とする場合(フックの形状は180°フックとする)
(a) 柱 (b) 梁(基礎梁を除く)

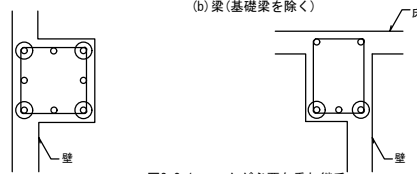


図2-2-1 フックが必要な重ね継手

- 柱の四隅にある主筋で最上階(中間階で上に柱がない場合を含む)の柱頭部(フックの形状は180°フックとする)

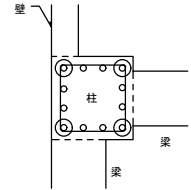


図2-2-2 最上階(上に柱がない場合を含む)の柱頭部でフックが必要な主筋

- あばら筋、帯筋(フック形状は2-3による)および幅止め筋(フック形状は図2-2-3による)

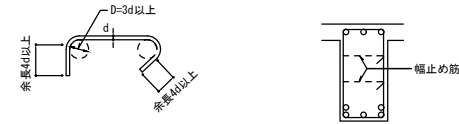


図2-2-3 幅止め筋の形状

- 煙突の鉄筋(フックの形状は180°フックとする)
- 杭基礎のベース筋
単杭の場合は、監理者と協議すること。

2-3 あばら筋および帯筋形状・寸法

- あばら筋および帯筋のスパイラル筋形状・寸法は、図3-3-4による。

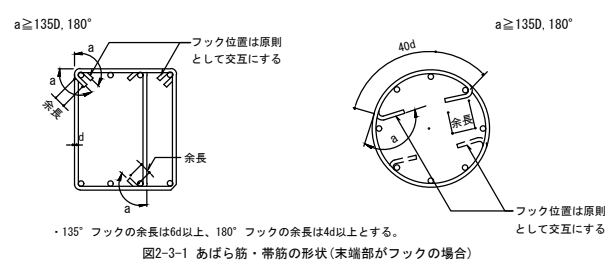


図2-3-1 あばら筋・帯筋の形状(末端部がフックの場合)

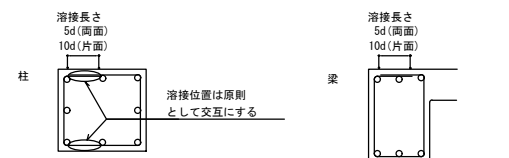


図2-3-2 あばら筋・帯筋の形状(末端部が溶接の場合)

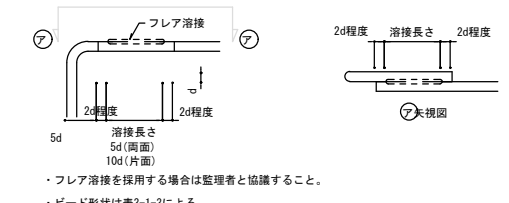


図2-3-3 あばら筋・帯筋の溶接要領

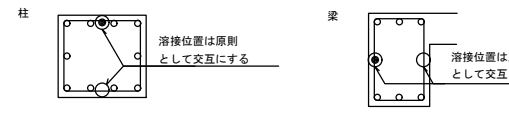


図2-3-4 あばら筋・帯筋の形状(溶接閉鎖形の場合)



- ・スラブと同時に打ち込むT形・L形梁のキャップタイ末端部は本図によってもよい。
- ・スラブが取り付く側のキャップタイ末端部は、90°フックとしてよい。
- ・スラブ付梁のキャップタイに90°フックを使用する場合、フックの余長は8d以上とする。

図2-3-5 スラブ付梁のあばら筋(末端部がフックの場合)

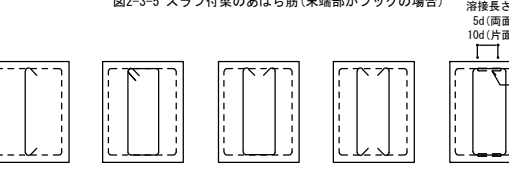


図2-3-6 副あばら筋・副帯筋の形状

- ・鉄筋末端部フックは、図2-3-1による。

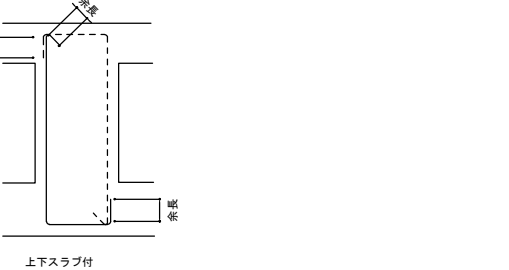


図2-3-7 梁せいの大きな基礎梁など、あばら筋を分割する場合のあばら筋・副あばら筋の形状

- ※1h(フック付重ね継手)は、表3-1-2による。
- ・原則、梁の上下にスラブが取り付く場合、かつ、梁せい1.5m以上の場合、使用可能とする。原則を守れない場合は、監理者と協議すること。

2-4 主筋のあき・2段筋の間隔

- 主筋相互のあきaは粗骨材最大寸法の1.25倍以上、隣り合う鉄筋呼び径の平均値の1.5倍以上とする。
- 粗骨材の最大寸法を25mmとして算出した数値を表2-4に示す。
- 粗骨材の最大寸法が25mm以外の場合のあき寸法、2段筋の間隔の最小値は、監理者に確認すること。
- 2段筋の間隔P2は構造図による。構造図に記載がない場合は表2-4による。
- 2段筋の間隔P2の最大値については、監理者に確認すること。

表2-4 主筋のあきaの最小値および2段筋の間隔P2 (単位mm)

呼び名(d)	最大径	主筋のあきaの最小値	2段筋の間隔P2の最小値
D10	11	32	43
D13	14	32	46
D16	18	32	50
D19	21	32	53
D22	25	33	58
D25	28	38	66
D29	33	44	77
D32	36	48	84
D35	40	53	93
D38	43	57	100
D41	46	62	108

(注) 1. 鉄筋の最大径は銘柄ごとに異なるため、使用する鉄筋に合わせて適宜判断すること。

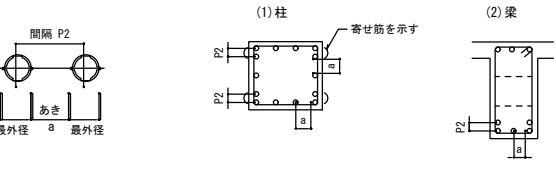


図2-4 柱梁主筋のあきと間隔

2-5 2段筋位置保持金物の形状および配置

- 2段筋がある場合は、原則として2段筋位置保持金物を図2-5-1にない取り付け。

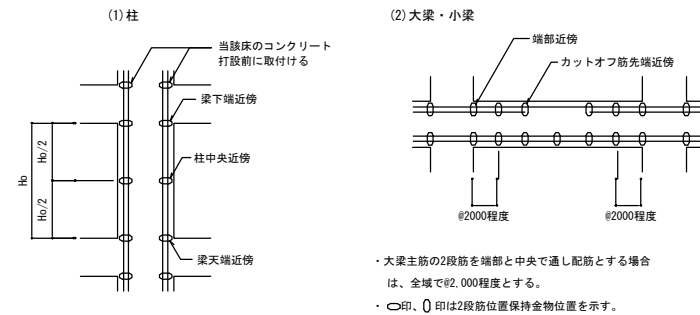


図2-5-1 2段筋位置保持金物の配置例

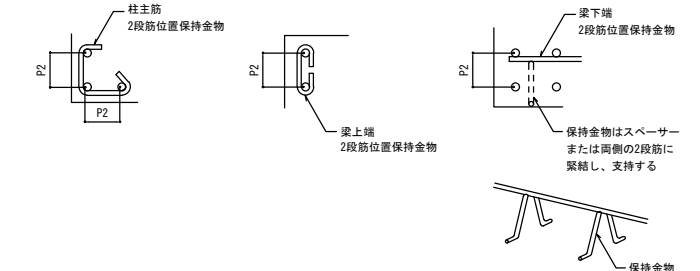


図2-5-2 2段筋位置保持金物の形状例

年度	令和7年度	
施設名	野幌森林公園	
工事名	北海道百年記念広場モニュメント設置工事測量設計等委託業務	
図面名	モニュメント配筋標準図(1)	
縮尺	—(A3)	図面番号 87葉の内23号
設計会社	株式会社 コンストラクションサポート藤井	令和 8年 3月
請負者		
発注者	北海道環境生活部文化局文化振興課	

§3 継手および定着

3-1 継手

- 対象とする継手は重ね継手・ガス圧接継手・フレア溶接継手とし、その他(機械式継手突合せアーク溶接継手など)の仕様は構造図による。
- 柱梁主筋の異形鉄筋重ね継手長さは構造図による。
- 耐力壁主筋に直線重ね継手を使用する場合、継手長さは、表3-1-1による。(表3-1-1の記載例：■採用、□不採用)

表3-1-1 直線重ね継手長さの指示

指示記号	構造計算方法	直線重ね継手長さ
□	構造計算を保有水平耐力計算等で実施したため、建築基準法施行令第73条の適用を除外する。	表3-1-2による。
■	上記以外	表3-1-2かつ40d以上(軽量コンクリートを使用する場合は、50d)とする。

- D35以上の異形鉄筋には、原則として重ね継手を用いない。
- 径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の径(d)により算出する。
- あき重ね継手は、原則としてスラブ筋・基礎スラブ筋・壁筋に適用する。その場合、あき重ね継手の継手長さは表3-1-2のL1を確保し、あき寸法は、0.2L1かつ150mm以下とする。(図3-1-3)
- 梁主筋の重ね継手は水平重ね継手を原則とし、上下重ね継手とする場合は監理者と協議すること。

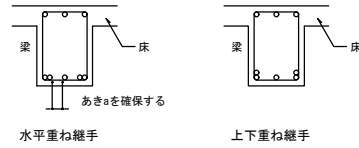


図3-1-1 梁主筋の重ね継手

- ガス圧接およびフレア溶接の形状は、表3-1-3による。
- 径の異なる鉄筋のガス圧接は、細い方の鉄筋の径(d)により算出する。径の差は原則として、7mm以下とする。
- 鉄筋のフレア溶接は、原則として鉄筋の種類はSD345まで、鉄筋の径はD16までとする。
- フレア溶接は、被覆アーク溶接またはガスシールドアーク溶接により、使用する溶接材料は、表3-1-4による。
- 隣り合う継手の位置は、図3-1-2による。ただし、スラブ筋(基礎スラブ筋を含む)でD16以下の場合および壁筋の場合は除く。
- 杭に用いる鉄筋の重ね継手長さは構造図による。

表3-1-2 鉄筋の重ね継手長さ L1, L1h

重ね継手長さ L1: フックなし L1h: フック付	鉄筋の種類	Fc(N/mm ²)					
		18	21	24	30	39	48
直線重ね継手の長さ L1	SD295A SD295B	45d	40d	35d	35d	30d	30d
フック付重ね継手の長さ L1h 180° フックの場合 ※	SD345	50d	45d	40d	35d	35d	30d
	SD390	50d	45d	40d	40d	35d	30d
	SD490	55d	50d	45d	40d	35d	30d
	SD295A SD295B	35d	30d	25d	25d	20d	20d
※フックを135° フック、90° フックとする場合のフック形状は表2-1による。	SD345	35d	30d	30d	25d	25d	20d
	SD390	35d	35d	30d	30d	25d	25d
	SD490	40d	35d	35d	30d	30d	30d
	<90° フックのみ>	40d	35d	35d	30d	30d	30d

- (注) 1. 軽量コンクリートの場合は、上表の数値に5dを加えた値とする。
2. 継手位置は、各標準図に示す継手の好ましい位置に設けること。

表3-1-3 ガス圧接・フレア溶接の形状

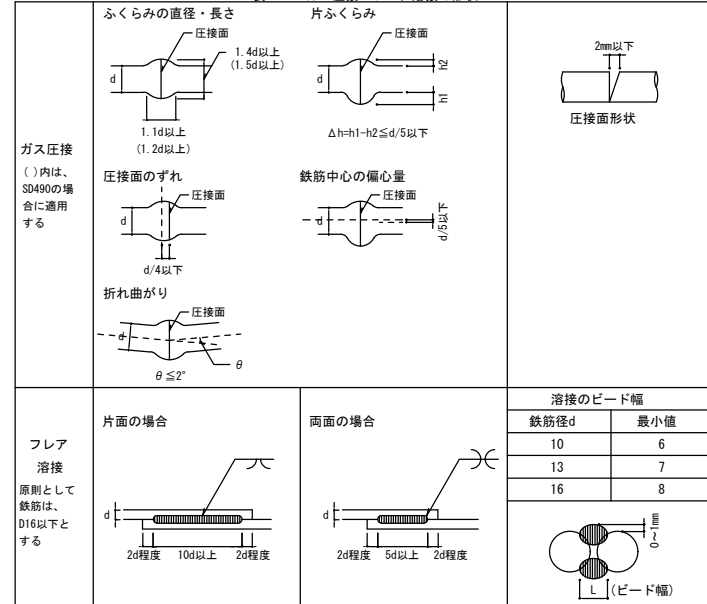


表3-1-4 フレア溶接に用いる鉄筋と溶接材料の組み合わせ

溶接される鉄筋の種類	被覆アーク溶接棒の種類 JIS Z 3211	ソリッドワイヤの種類 JIS Z 3312
SD295A SD295B	E4316, E4915, E4916等の低水素系溶接棒	YGM11 YGW12 YGM13 YGW15 YGM16 YGW18 YGM19
SD345	E4915, E4916等の低水素系溶接棒	

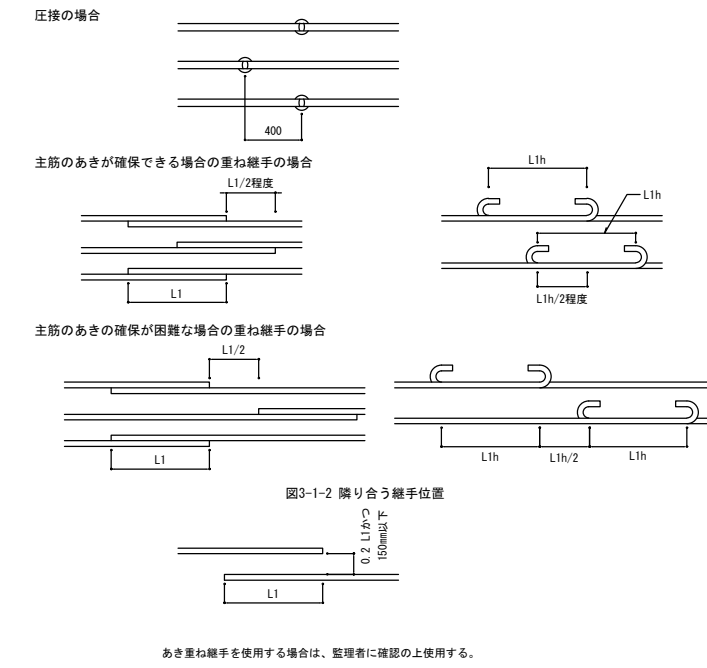


図3-1-3 スラブ筋・基礎スラブ筋・壁筋のあき重ね継手

3-2 定着

- 異形鉄筋の定着長さは、表3-2-1の鉄筋の定着長さによる。ただし、小梁・スラブの下端筋の定着長さは、表3-2-2による。
- 梁主筋の柱への定着は、原則として折曲げ定着とする。
- 梁主筋の柱内定着において、定着の投影長さは原則柱せいの3/4倍以上とする。
- 柱梁仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さが、表3-2-1のフック付定着の長さL2hを確保できない場合は、全長を表3-2-1に示す直線定着の長さとし、余長を8d以上、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを、表3-2-3に示す長さLa以上とする。
- 大梁内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さが、表3-2-1のフック付定着の長さL2hを確保できない小梁及びスラブの場合は、全長を表3-2-1に示す直線定着の長さとし、余長を8d以上、仕口面から鉄筋外面までの投影長さを、表3-2-3に示す長さLb(かつ、原則として、定着される梁幅の1/2倍)以上とする。

表3-2-1 鉄筋の定着長さ L2, L2h

定着長さ L2: 直線定着 L2h: フック付定着	鉄筋の種類	Fc(N/mm ²)					
		18	21	24	30	39	48
直線定着長さ L2	SD295A	40d	35d	30d	30d	25d	25d
	SD295B	40d	35d	30d	30d	25d	25d
	SD345	40d	35d	35d	30d	30d	25d
	SD390	40d	40d	35d	35d	30d	30d
フック付定着長さ L2h 90° フックの場合 ※	SD295A	30d	25d	20d	20d	15d	15d
	SD295B	30d	25d	20d	20d	15d	15d
	SD345	30d	25d	25d	20d	20d	15d
	SD390	30d	30d	25d	25d	20d	20d
※フックを135° フック、180° フックとする場合のフック形状は表2-1による。	SD490	35d	30d	30d	30d	25d	25d
	<90° フックのみ>	35d	30d	30d	30d	25d	25d

- (注) 1. 軽量コンクリートの場合は、上表の数値に5dを加えた値とする。

表3-2-2 小梁・スラブの下端筋の定着長さ L3, L3h

定着長さ L3: 直線定着 L3h: フック付定着	鉄筋の種類	Fc(N/mm ²)	
		18~60	部位
直線定着長さ L3	SD295A	20d	10dかつ150mm
	SD295B	<25d>	<25d>
	SD345	10d	—
	SD390	—	—
フック付定着長さ L3h	SD295A	10d	—
	SD295B	—	—
	SD345	—	—
	SD390	—	—

- (注) 1. 軽量コンクリートの場合は、上表の数値に5dを加えた値とする。
2. 「—」は適用範囲外を示す。
3. <>は片持ち部材の場合を示す。

表3-2-3 折曲げ定着長さ La, Lb

定着長さ	鉄筋の種類	Fc(N/mm ²)					
		18	21	24	30	39	48
折曲げ定着長さ	SD295A SD295B	20d	15d	15d	15d	15d	15d
梁主筋の柱内折曲げ定着の投影長さ La	SD345	20d	20d	20d	15d	15d	15d
	SD390	20d	20d	20d	15d	15d	15d
	SD490	25d	25d	20d	20d	20d	20d
	SD295A SD295B	15d	15d	15d	15d	15d	15d
小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影長さ Lb	SD345	20d	20d	15d	15d	15d	15d
	SD390	20d	20d	15d	15d	15d	15d
	SD490	20d	20d	15d	15d	15d	15d
	SD295A SD295B	15d	15d	15d	15d	15d	15d

- (注) 1. La: 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影長さ(基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブの上端筋を含む)
2. Lb: 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影長さ(片持ち小梁及び片持ちスラブの上端筋を除く)
3. 軽量コンクリートの場合は、表の数値に5dを加えたものとする。

[付加] 4. 柱せいが小さくLa確保できない場合は、柱面からの定着長を40dとする。

3-3 その他の継手および定着

- 溶接金網の重ね継手は、図3-3-1による。構造図に記載のない場合は、応力伝達用とする。溶接金網の合わせ面は、図3-3-2タイプA、タイプBいずれとしてもよい。
- 溶接金網の定着は、図3-3-3による。
- 帯筋にスパイラル筋を用いる場合の定着・継手要領は、図3-3-4による。
- 鉄筋格子については、3-1 継手、3-2 定着による。

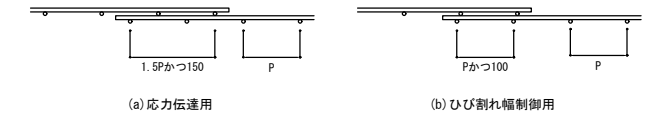


図3-3-1 溶接金網の重ね継手

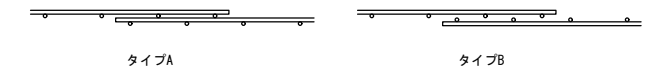


図3-3-2 溶接金網の重ね継手の合わせ面

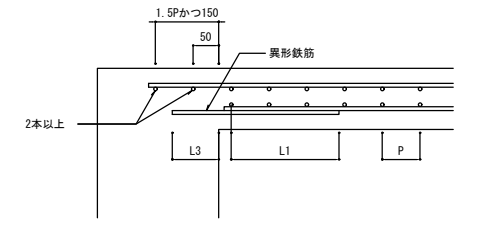


図3-3-3 溶接金網の定着

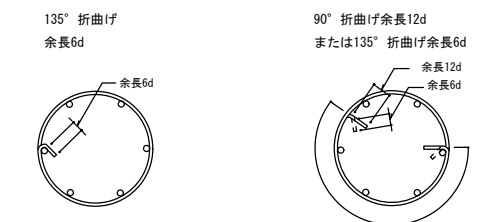


図3-3-4 スパイラル筋の末端定着・重ね継手要領

年度	令和7年度	
施設名	野幌森林公園	
工事名	北海道百年記念広場 モニュメント設置工事測量設計等委託業務	
図面名	モニュメント配筋標準図(2)	
縮尺	—(A3)	図面番号 87葉の内24号
設計会社	株式会社 コンストラクションサポート藤井	令和 8年 3月
請負者		
発注者	北海道環境生活部文化局文化振興課	

§4 かぶり厚さ

4-1 鉄筋のかぶり厚さ

- 鉄筋のかぶり厚さは表4-1による。
- 柱・梁かぶり厚さは表4-1を満足し、かつ主筋に対する最小かぶり厚さは、主筋径の1.5倍以上とする。D29以上の鉄筋を使用する場合は、最小かぶり厚さが表4-1より大きくなる部位があるため、注意すること。
- 配筋は構造体寸法(打増しを除いた寸法)から所定の設計かぶり厚さを確保できる位置に行う。
- 耐久性上有効な仕上げがある場合、表4-1の※1の値を10mm減じてよい。
耐久性上有効な仕上げの例
・タイル張り
・モルタル塗り(10mm以上)
・打増し(10mm以上)
- ひび割れ誘発目地・打継ぎ目地・化粧目地等がある場合は、目地底からのかぶり厚さを確保する。
- 柱・梁で打継ぎ目地を設ける場合は、構造体寸法に目地深さを打増しとする。この打増しは上記4.により、耐久性上有効な仕上げと考えることができる。
- 捨てコンクリートは、かぶり厚さに含まない。
- 軽量コンクリートを用いる場合は表4-1の※2の値に10mmを加えた値とする。

表4-1 鉄筋のかぶり厚さ (単位mm)

部位	設計かぶり厚さ ※3	最小かぶり厚さ ※4	分類記号		
				設計かぶり厚さ	最小かぶり厚さ
土に接しない部分	スラブ	30	20	a	
	柱・梁	屋内	40 ※1	30 ※1	b
		屋外	40	30	c
	耐力壁	屋外	50 ※1	40 ※1	d
		屋内	30	20	e
	非耐力壁	屋外	40 ※1	30 ※1	f
土に接する部分	煙突内面	60	50	g	
	擁壁・基礎スラブ	50	40	h	
	柱・梁・壁・スラブ	50 ※2	40 ※2	i	
	連続基礎の立上り部分	70 ※2	60 ※2	j	
	基礎スラブ・擁壁	70 ※2	60 ※2	k	
	基礎	70 ※2	60 ※2	k	

※3 設計かぶり厚さ
施工誤差の割増10mmを標準として見込むことによって、打設後最小かぶり厚さを下回る危険性を少なくするように、設計時点で配慮したかぶり厚さを示す。

※4 最小かぶり厚さ
建築基準法施行令に規定されたかぶり厚さを基に、屋外側については耐久性の観点から10mm増したかぶり厚さを示す。

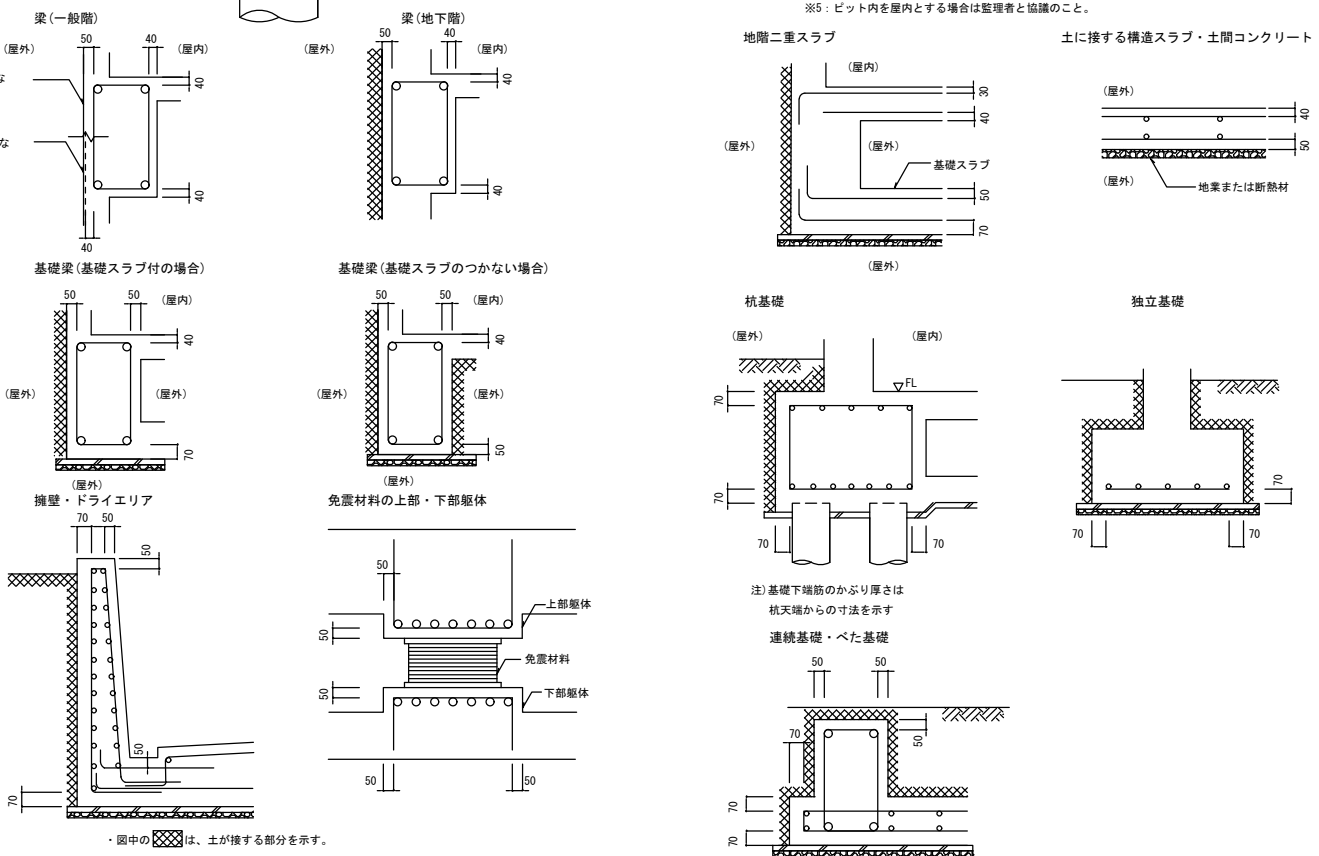
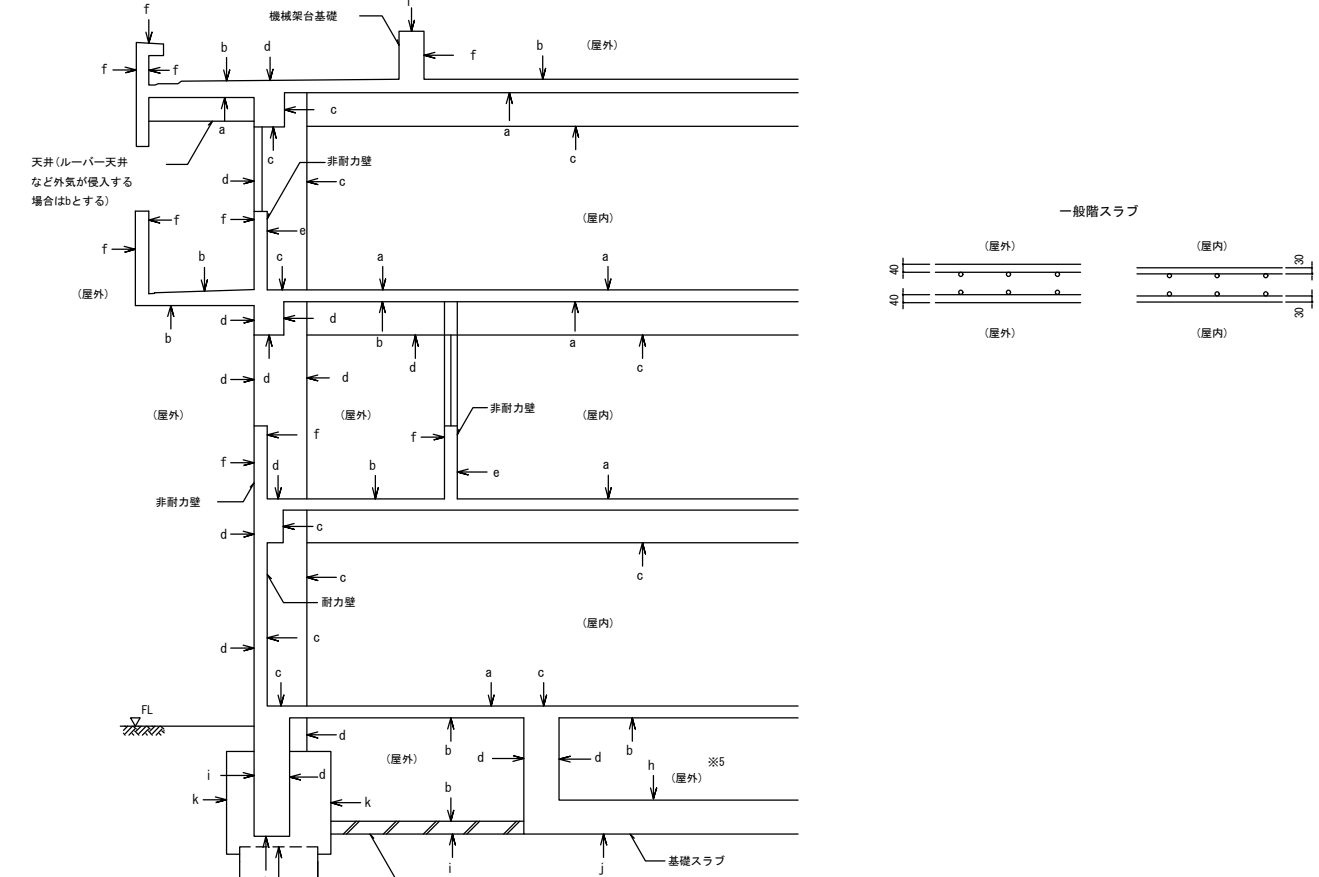
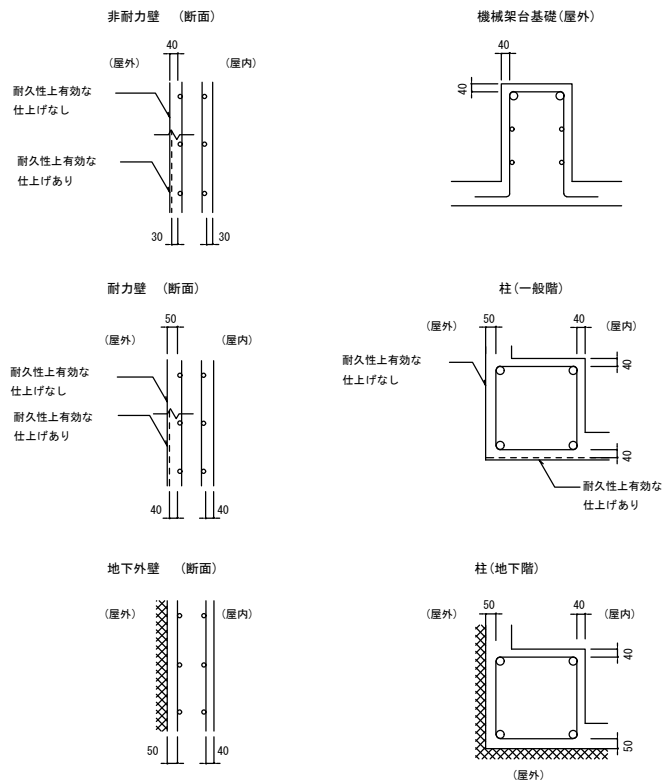


図4-1 部別設計かぶり厚さ

4-2 鉄筋サポート・スペーサー・結束線

- 鉄筋サポート・スペーサーのサイズは設計かぶり厚さを満足するものを使用する。
- 鉄筋サポート・スペーサーの種類は設計基準強度以上のコンクリート製または鋼製を使用する。柱・梁・基礎・基礎梁・壁・地下外壁の側面のスペーサーはプラスチック製でもよい。
- 鉄筋サポート・スペーサーの数量、配置は図4-2-1、図4-2-2、図4-2-3、図4-2-4による。
- スペーサー(ドーナツ形)は縦使いを原則とする。梁の側面の場合、スペーサーを設置する腹筋と近傍のあばら筋を動かぬよう緊結させる。
- 断熱材打込み時の鉄筋サポートは断熱材用の製品(プレート付き)を使用するか、または鉄筋サポート下に樹脂パットを設置し、断熱材にめりこまないようにする。
- 鋼製鉄筋サポートは在来型柱との接触面に防錆処理を施した製品を使用する。
- 結束線は内側に折り曲げることを原則とする。

柱・梁
Pは1500程度とする。

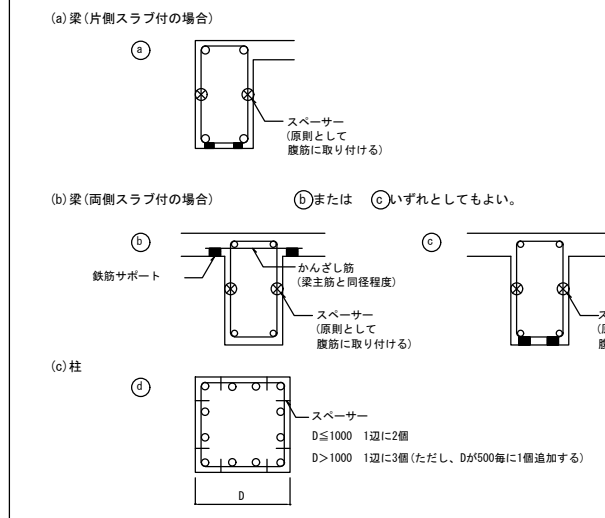
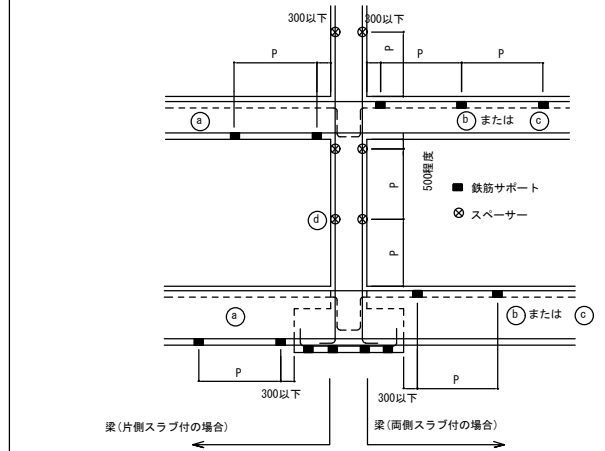


図4-2-1 柱・梁の鉄筋サポート・スペーサーの取付け要領

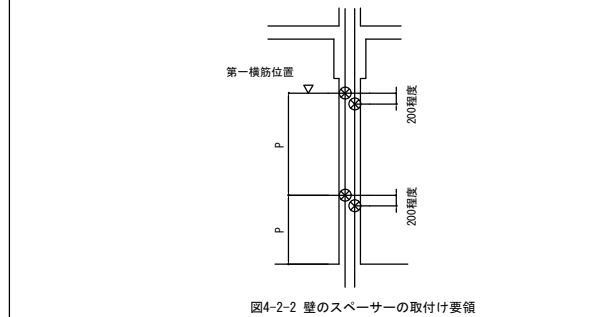


図4-2-2 壁のスペーサーの取付け要領

年度	令和7年度	
施設名	野幌森林公園	
工事名	北海道百年記念広場 モニュメント設置工事測量設計等委託業務	
図面名	モニュメント配筋標準図(3)	
縮尺	—(A3)	図面番号 87葉の内25号
設計会社	株式会社 コンストラクションサポート藤井	令和 8年 3月
請負者		
発注者	北海道環境生活部文化局文化振興課	

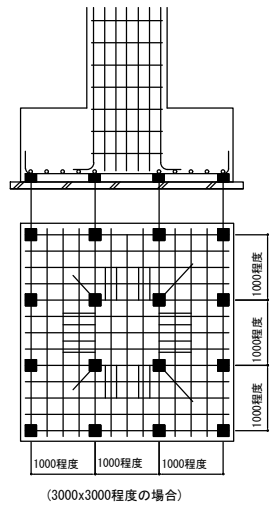


図4-2-3 基礎の鉄筋サポートの取付け要領

スラブ

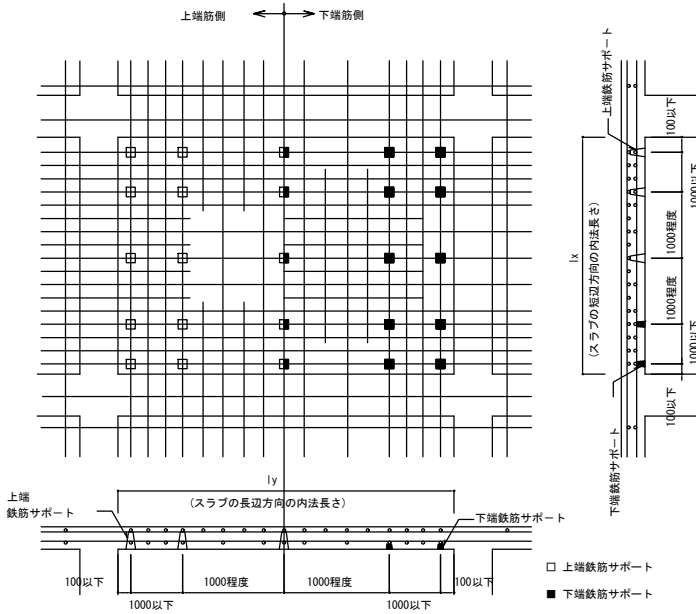


図4-2-4 スラブの鉄筋サポートの取付け要領

§5 基礎

5-1 独立基礎

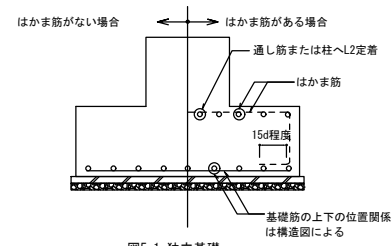


図5-1 独立基礎

5-2 連続基礎

1. 連続基礎の側柱交差部は、外周部の基礎主筋を連続して配置する。
2. 中柱交差部における基礎主筋を連続する方向は構造図による。
3. 隅柱交差部は、両方向の基礎主筋を連続して配置する。

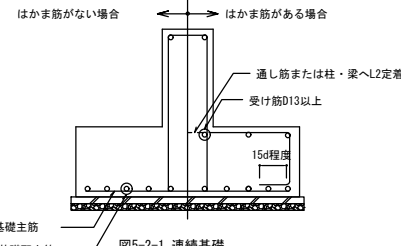
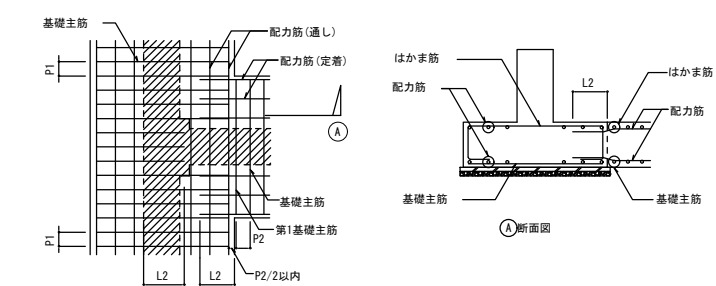
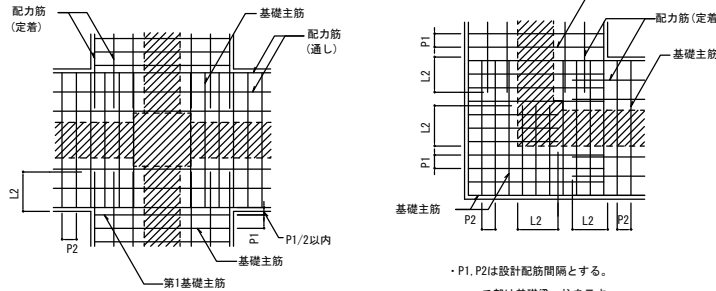


図5-2-1 連続基礎

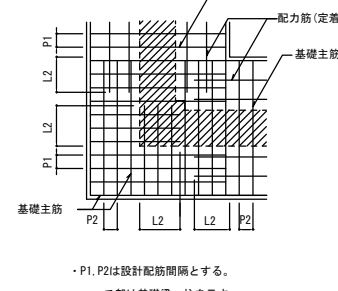
(1) 側柱交差部



(2) 中柱交差部



(3) 隅柱交差部



・P1, P2は設計配筋間隔とする。
・ハッチ部は基礎梁、柱を示す。

5-3 杭基礎

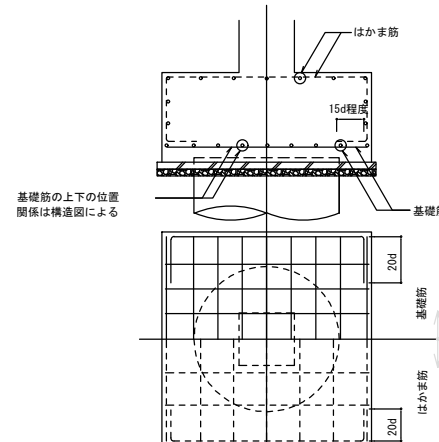


図5-3-1 1本杭の場合

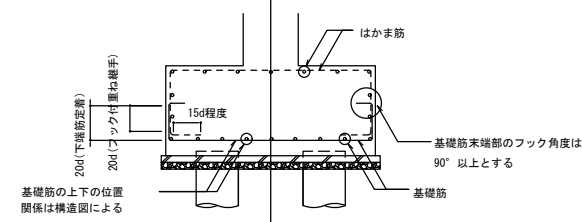
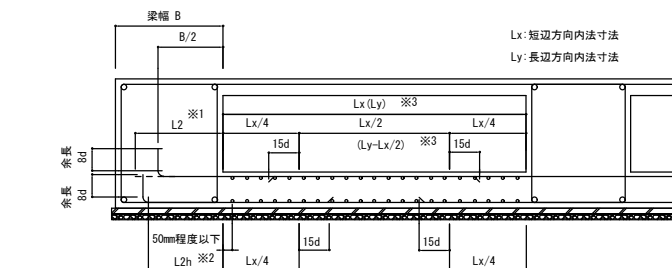


図5-3-2 2本杭以上の場合

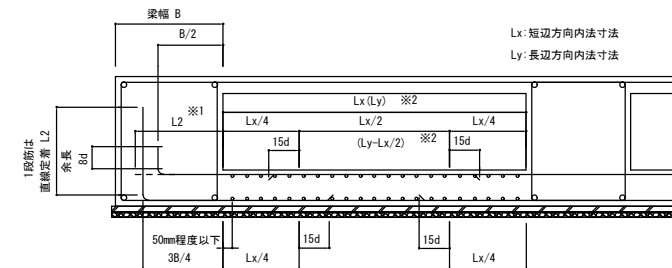
5-4 基礎スラブの定着・カットオフ筋長さおよび継手位置

1. 採用するタイプは、基礎に浮き上がりが生じない場合はA1、B1、浮き上がりが生じる場合はA2とし、配置は構造図による。
2. 基礎スラブの第1鉄筋は基礎梁のコンクリート面より50mm程度の位置とする。



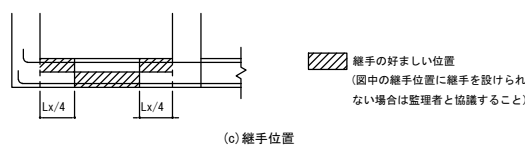
- ※1 基礎スラブ上端筋の定着は、直線定着(L2)、フック付定着(L2h)のいずれとしてもよい。ただし、投影定着長さ(水平のみこみ長さ)をB/2以上確保する。
- ※2 下端筋の定着は、フック付定着(L2h)とする。ただし、投影定着長さ(水平のみこみ長さ)をB/2以上確保する。
- ※3 ()内の寸法は長辺方向の場合を示す。

(a) 定着およびカットオフ筋長さ(タイプA1)



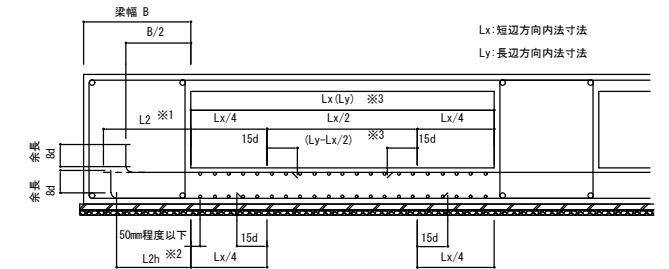
- ※1 基礎スラブ上端筋の定着は、直線定着(L2)、フック付定着(L2h)のいずれとしてもよい。ただし、投影定着長さ(水平のみこみ長さ)をB/2以上確保する。
- ※2 ()内の寸法は長辺方向の場合を示す。

(b) 定着およびカットオフ筋長さ(タイプA2)
(地震時などに基礎に浮き上がりが生じる場合)



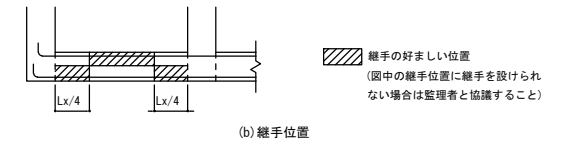
(c) 継手位置

図5-4-1 ベタ基礎の耐圧スラブなどの場合(タイプA1・タイプA2)



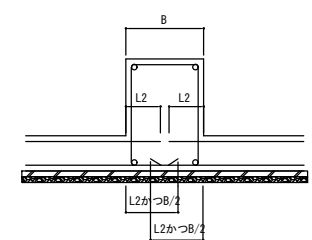
- ※1 基礎スラブ上端筋の定着は、直線定着(L2)、フック付定着(L2h)のいずれとしてもよい。ただし、投影定着長さ(水平のみこみ長さ)をB/2以上確保する。
- ※2 下端筋の定着は、フック付定着(L2h)とする。ただし、投影定着長さ(水平のみこみ長さ)をB/2以上確保する。
- ※3 ()内の寸法は長辺方向の場合を示す。

(a) 定着およびカットオフ筋長さ



(b) 継手位置

図5-4-2 その他の基礎スラブの場合(タイプB1)



・基礎スラブの配筋が左で同じ場合、通し配筋としてよい。

図5-4-3 基礎スラブが梁下で連続する場合の定着

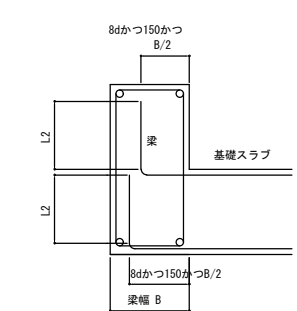


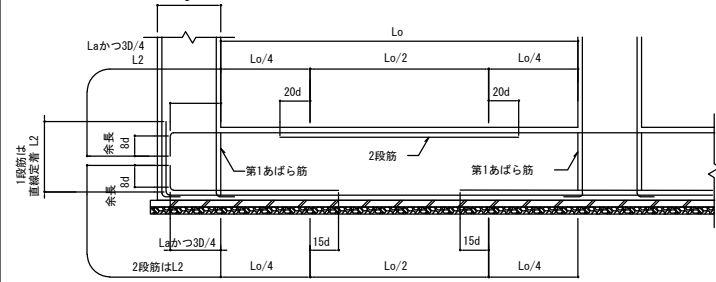
図5-4-4 幅の小さい梁への定着要領
(L2hが確保できない場合)

年度	令和7年度	
施設名	野幌森林公園	
工事名	北海道百年記念広場 モニュメント設置工事測量設計等委託業務	
図面名	モニュメント配筋標準図(4)	
縮尺	—(A3)	図面番号 87葉の内26号
設計会社	株式会社 コンストラクションサポート藤井	令和8年3月
請負者		
発注者	北海道環境生活部文化局文化振興課	

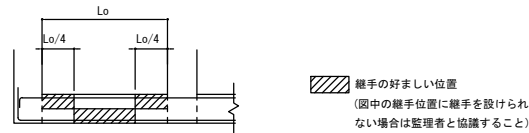
5.6 基礎梁

6-1 基礎大梁の定着・カットオフ筋長さおよび継手位置

1. 採用するタイプは、基礎に浮き上がりが生じない場合はA1、B1、C1、浮き上がりが生じる場合はB2、C2とし、配置は構造図による。
2. 柱を介して連続する基礎梁の主筋本数が異なる場合は、通し筋以外の基礎梁主筋を柱内に定着する。または柱コンクリート面より定着長さをとって反対側の梁内に定着する。
3. カットオフ筋長さは、構造図による。構造図に記載のない場合は、図6-1-1、図6-1-2、図6-1-3による。

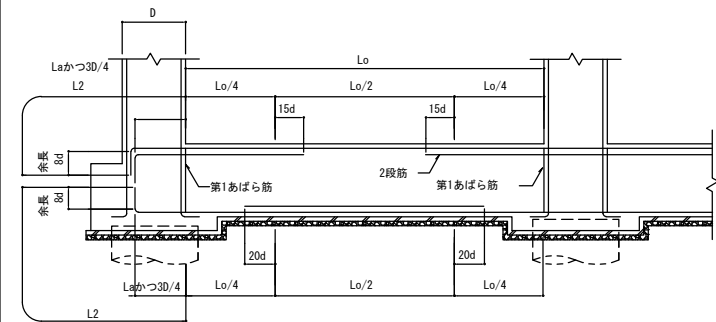


(a) 定着およびカットオフ筋長さ (タイプA1)

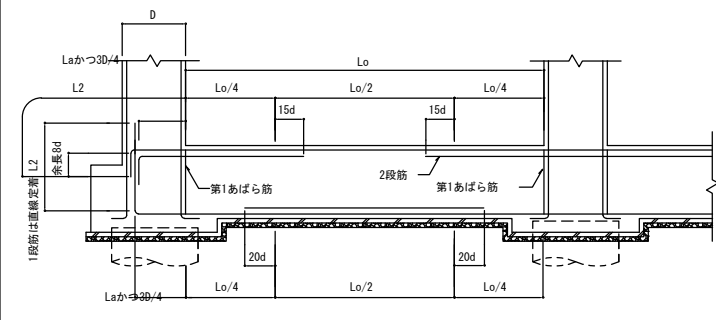


(b) 継手位置

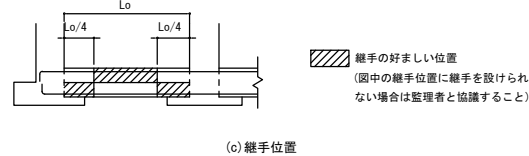
図6-1-1 べた基礎・連続基礎の場合(タイプA1)



(a) 定着およびカットオフ筋長さ (タイプB1)

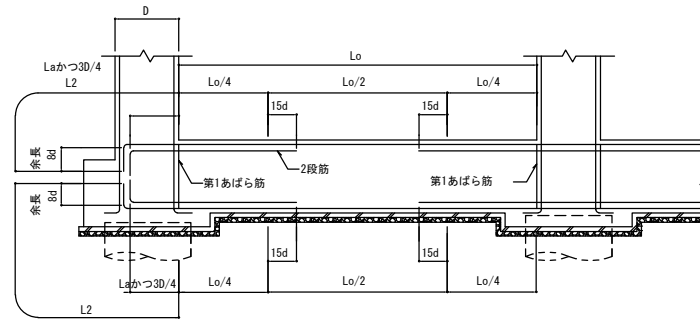


(b) 定着およびカットオフ筋長さ (タイプB2)
(地震時などに基礎に浮き上がりが生じる場合)

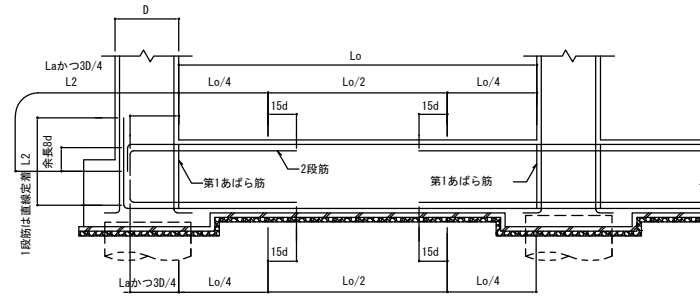


(c) 継手位置

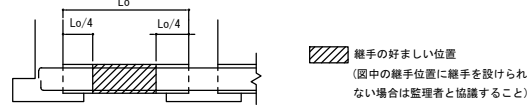
図6-1-2 杭基礎・独立基礎の場合(タイプB1・タイプB2)



(a) 定着およびカットオフ筋長さ(タイプC1)



(b) 定着およびカットオフ筋長さ(タイプC2)
(地震時などに基礎に浮き上がりが生じる場合)

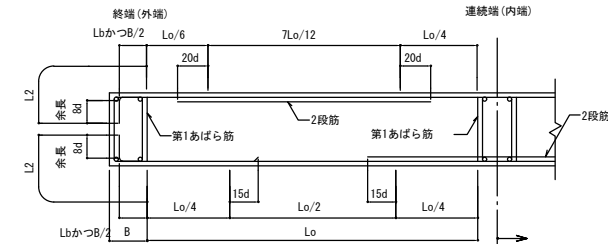


(c) 継手位置

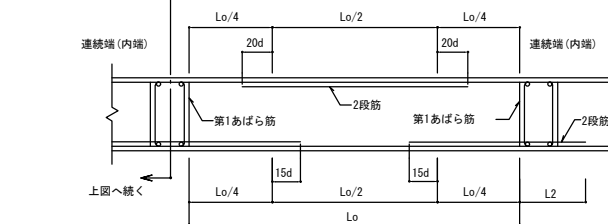
図6-1-3 杭基礎・独立基礎の場合(タイプC1・タイプC2)

6-2 基礎小梁の定着・カットオフ筋長さおよび継手位置

1. 採用するタイプは、基礎小梁が連続する場合はA1、B1、連続しない場合はA2、B2とし、配置は構造図による。

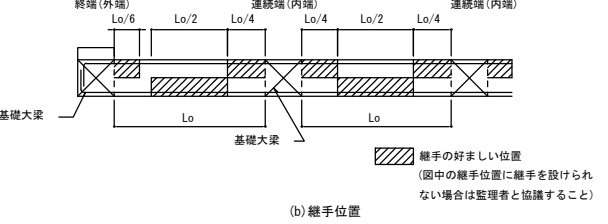


(a) 定着およびカットオフ筋長さ



(b) 継手位置

図6-2-1 基礎小梁が連続梁の場合(タイプA1)

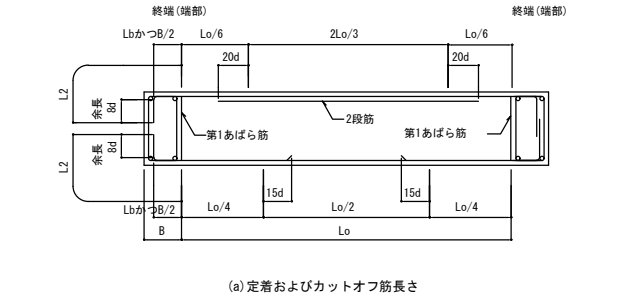


(a) 定着およびカットオフ筋長さ

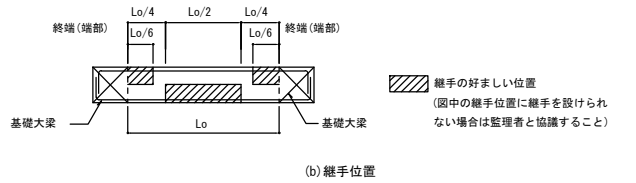


(b) 継手位置

図6-2-2 基礎小梁が連続梁の場合(タイプB1)

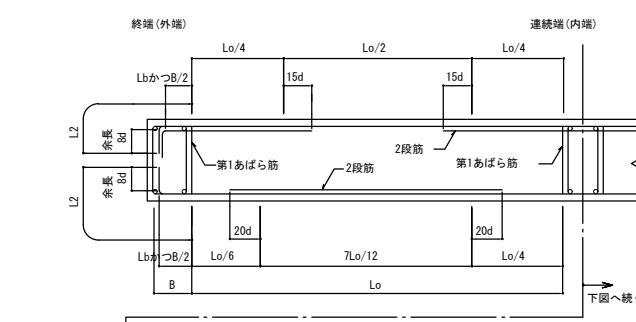


(a) 定着およびカットオフ筋長さ

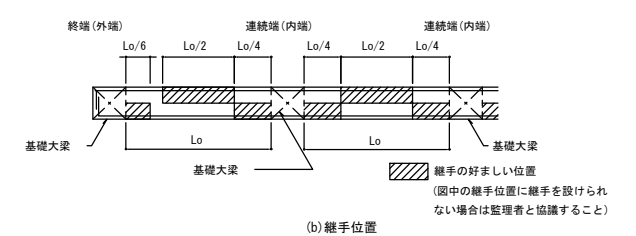


(b) 継手位置

図6-2-2 基礎小梁が単独梁の場合(タイプA2)

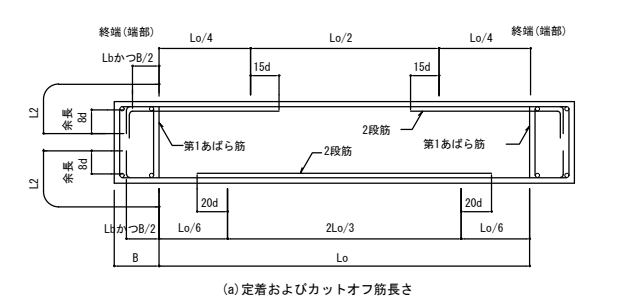


(a) 定着およびカットオフ筋長さ

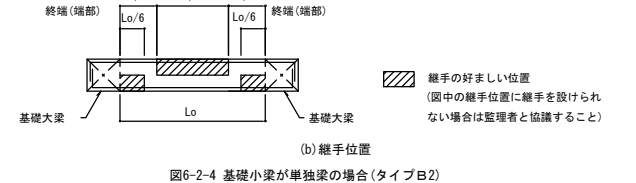


(b) 継手位置

図6-2-3 基礎小梁が連続梁の場合(タイプB1)



(a) 定着およびカットオフ筋長さ



(b) 継手位置

図6-2-4 基礎小梁が単独梁の場合(タイプB2)

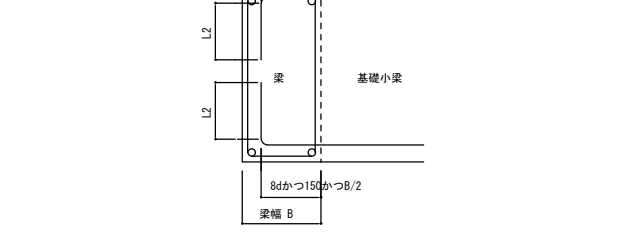


図6-2-5 幅の小さい梁への定着要領
(Lbが確保できない場合)

6-3 基礎梁と基礎の取合い部補強要領

1. 基礎梁と基礎の取合い部補強要領は構造図による。構造図に記載のない場合は、図6-3による。
2. 取合い部補強の幅は、基礎梁と同じとする。

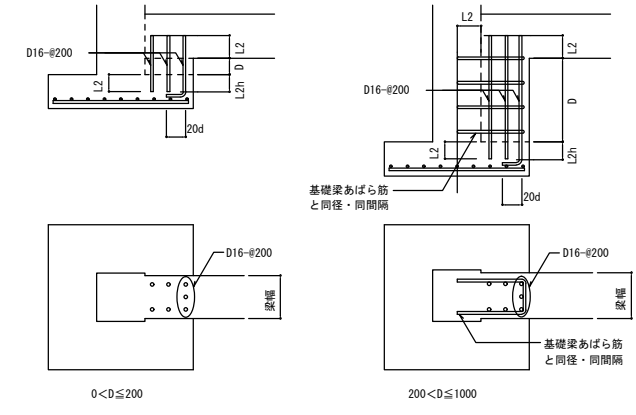
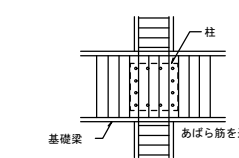


図6-3 取合い部補強要領

6-4 基礎大梁と最下階柱の取合い部配筋要領

1. 基礎大梁と最下階柱の取合い部配筋要領は構造図による。構造図に記載のない場合は、図6-4による。

(1) 基礎大梁幅が柱幅より大きい柱脚の場合



(2) 基礎大梁幅が柱幅より小さい柱脚の場合

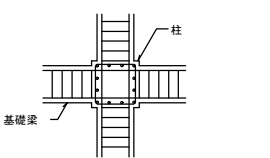


図6-4 基礎大梁と最下階柱の取合い部配筋要領

年度	令和7年度	
施設名	野幌森林公園	
工事名	北海道百年記念広場 モニュメント設置工事測量設計等委託業務	
図面名	モニュメント配筋標準図(5)	
縮尺	—(A3)	図面番号 87葉の内27号
設計会社	株式会社 コンストラクションサポート藤井	令和 8年 3月
請負者		
発注者	北海道環境生活部文化局文化振興課	

§7 柱

7-1 柱の定着・カットオフ筋長さおよび継手位置

1. 継手はガス圧接、重ね継手を示し、それ以外の継手の仕様は構造図による。
2. Hoは柱の最大内法高さとする。
3. 柱主筋の定着は以下による。
 - (1) 柱頭主筋の定着：柱に取り付け最も高い梁下端からL2以上かつ最も高い梁下端から15d以上とする。
 - (2) 柱脚主筋の定着：柱に取り付け最も低い梁下端からL2以上かつ最も低い梁下端から15d以上とする。
4. カットオフ筋長さは以下による。
 - (1) 柱頭カットオフ筋長さ：柱に取り付け最も低い梁下端からHo/2+15d以上とする。
 - (2) 柱脚カットオフ筋長さ：柱に取り付け最も高い梁下端からHo/2+15d以上とする。

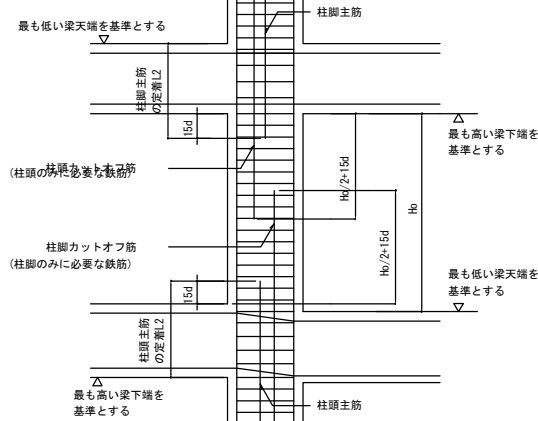


図7-1-1 柱主筋の定着およびカットオフ筋長さ

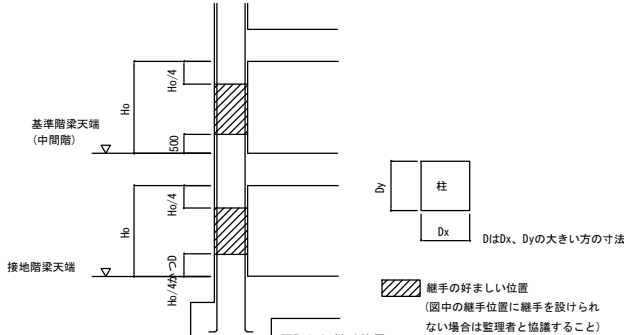


図7-1-2 継手位置

7-2 柱の仕口部(柱・梁接合部)

1. 柱の仕口部の範囲は構造図による。構造図に記載のない場合は、柱に取り付け全ての梁せいが重なる範囲を仕口部とする。(図7-2-1)
2. 直交梁がない場合、柱の仕口部帯筋範囲は構造図による。構造図に記載のない場合は、仕口部帯筋配筋は適用しない。(図7-2-2)
3. 柱の仕口部帯筋の範囲は、図7-2-3による。
4. 柱の仕口部帯筋の配筋要領は構造図による。

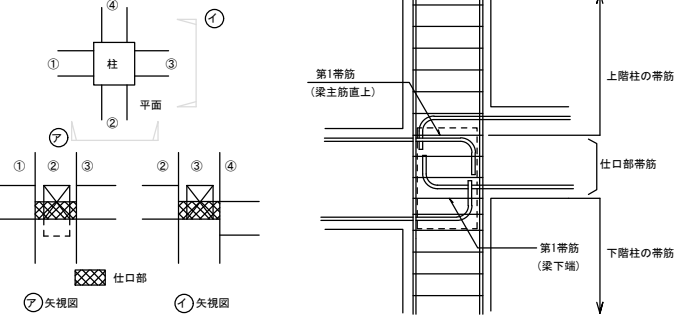


図7-2-1 柱の仕口部の範囲



図7-2-2 柱仕口部範囲の有無



・第1帯筋は、上(下)階の柱の帯筋と同様とする。

図7-2-3 仕口部帯筋の範囲と第1帯筋位置

7-3 定着

1. 柱部の定着は図7-3-1による。
2. 柱脚部の定着は図7-3-2、図7-3-3による。

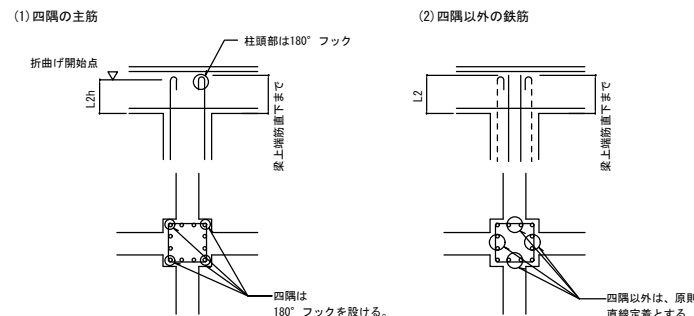


図7-3-1 最上階の柱の場合(中間階で上に柱のない場合)

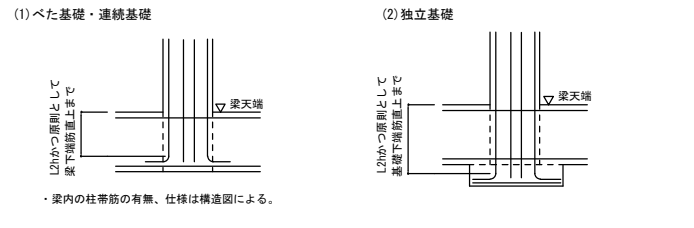


図7-3-2 最下階の柱の場合

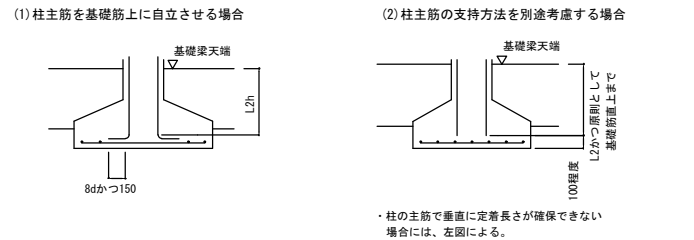


図7-3-3 最下階の柱主筋の定着と支持方法

7-4 柱主筋の折曲げ位置および帯筋

1. 柱主筋の折曲げ位置は、梁の主筋間隔内とする。(図7-4-1)
2. 柱主筋を折曲げて通し筋とする場合(図7-4-1)の梁上第1帯筋は、上階柱帯筋と同径の帯筋を2組重ねる。

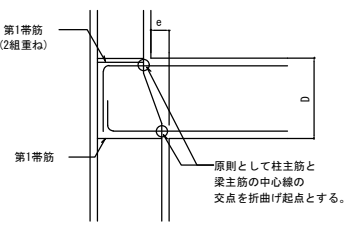


図7-4-1 柱主筋を折曲げて通し筋とする場合(柱のしぼり勾配 e/D ≤ 1/6 の場合)

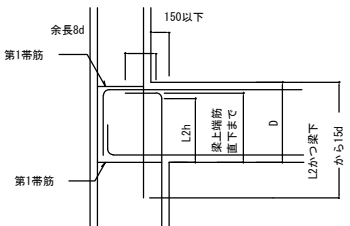


図7-4-2 柱主筋を通し筋としない場合(柱のしぼり寸法が150mm以下の場合)

§8 大梁

8-1 大梁カットオフ筋長さおよび継手位置

1. カットオフ筋長さは、構造図による。構造図に記載のない場合は、図8-1による。
2. 大梁継手位置は、図8-1による。

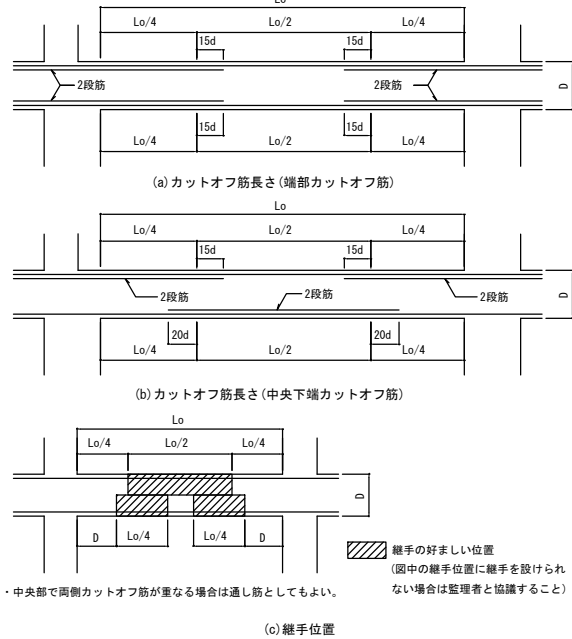


図8-1 大梁のカットオフ筋長さおよび継手位置

8-2 梁主筋の柱への定着

1. 梁主筋の柱への定着は原則として折曲げ定着とし、定着要領は構造図による。構造図に記載のない場合は、図8-2-1、図8-2-2による。
2. 下端筋の定着は、曲上げを原則とする。曲上げ筋がおさまらず、曲下げとする場合(図中の破線)は、監理者と協議すること。

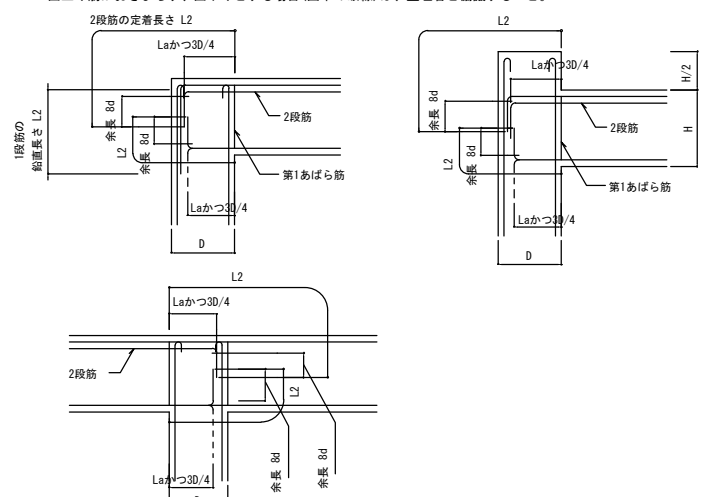


図8-2-1 最上階の場合(上に柱のない場合)

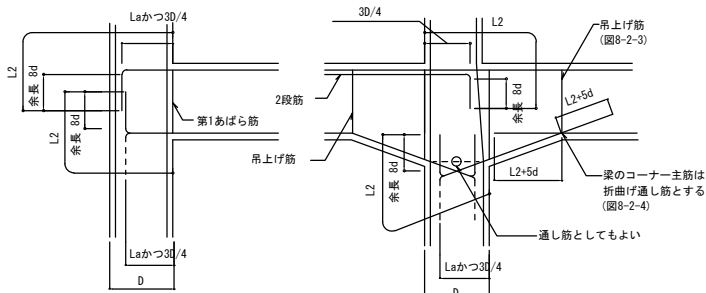


図8-2-2 中間階の場合



図8-2-3 吊上げ筋の形状

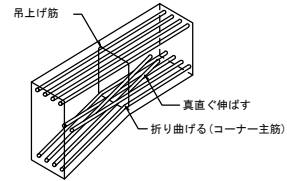


図8-2-4 ハンチ部配筋

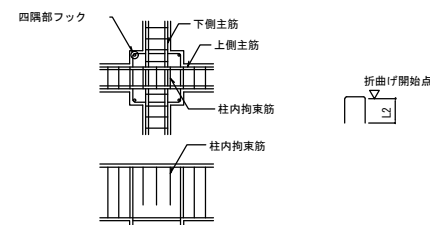
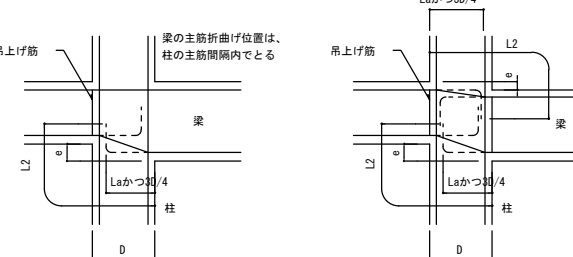


図8-2-5 最上階柱頭補強(上に柱のない場合)

8-3 梁主筋が真直ぐ通らない場合のおさまり

1. 梁主筋は原則として通し筋とするが、鉄筋のあき寸法が確保できる場合は折曲げ定着としてもよい。直線定着とする場合は、監理者と協議すること。

(1) e/D ≤ 1/6 の場合



(2) e/D > 1/6 の場合

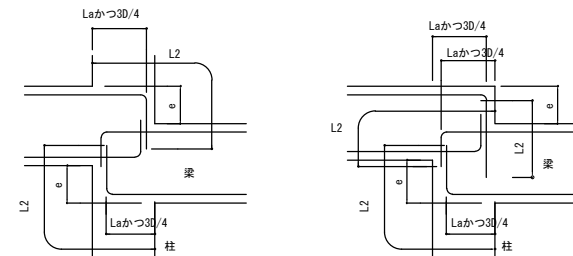


図8-3-1 鉛直方向にずれのある場合

(1) e/D ≤ 1/6 の場合

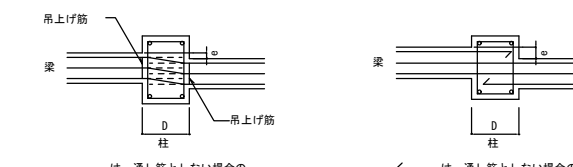
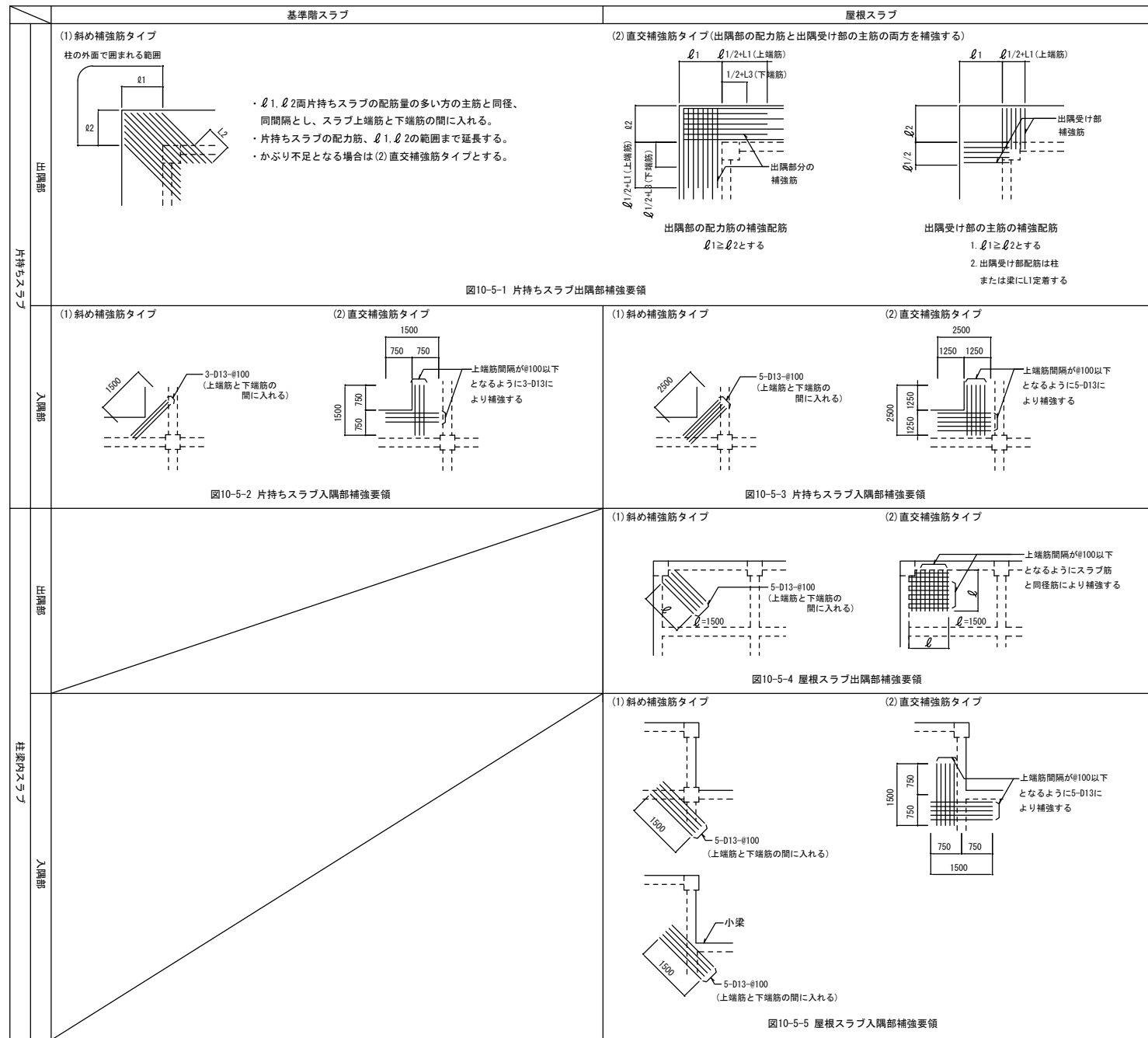


図8-3-2 水平方向にずれのある場合

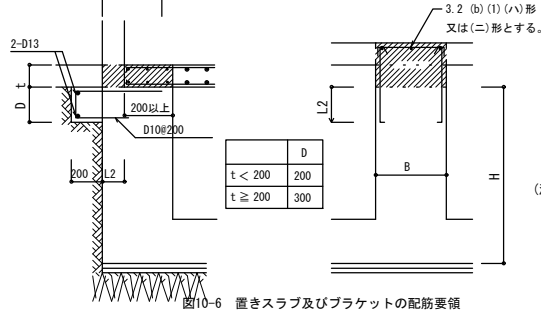
年度	令和7年度	
施設名	野幌森林公園	
工事名	北海道百年記念広場モニュメント設置工事測量設計等委託業務	
図面名	モニュメント配筋標準図(6)	
縮尺	—(A3)	図面番号 87葉の内28号
設計会社	株式会社 コンストラクションサポート藤井	令和 8年 3月
請負者		
発注者	北海道環境生活部文化局文化振興課	

10-5 補強筋

- 片持ちスラブの出隅および入隅部補強筋は構造図による。構造図に記載のない場合は図10-5-1、図10-5-2、図10-5-3による。
- 屋根スラブの出隅および入隅部補強筋は構造図による。構造図に記載のない場合は図10-5-4、図10-5-5による。



[付加] 10-6 土間スラブ及びブラケットの配筋要領

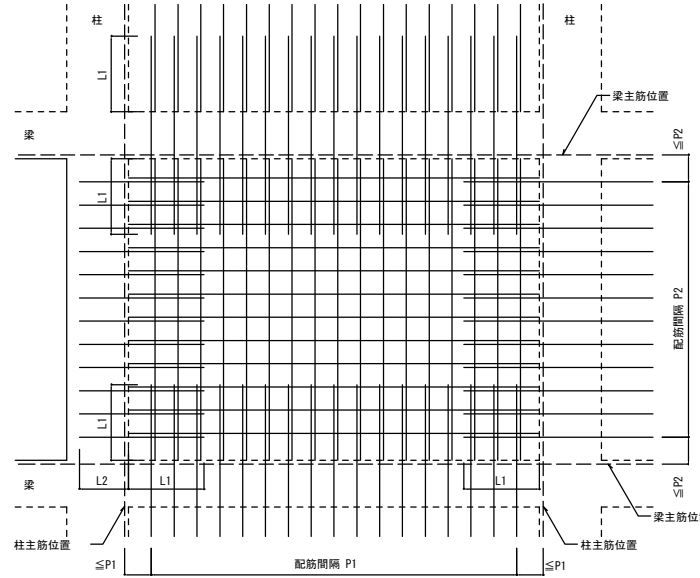


(注) 1. 土間スラブにおいて斜線部分は梁の打増とみなし、打増補強筋を13-5により配筋する。

S11壁

11-1 壁と柱・梁とのおさまり

- 壁筋の継手は、壁内とし、柱・梁内に設けない。
- 壁筋の柱・梁内の定着方法は、図11-1-2、図11-1-3、図11-1-4による。
- 壁の第1横筋と縦筋は、柱面・梁面から100mm以下かつ柱主筋・梁主筋から設計間隔以内に配置する。



- 図中のP1, P2は、壁筋の間隔を示す。
- 壁配筋の重ね継手はL1、定着長さはL2とする。
- 幅止め筋は、縦横ともD10-φ1000程度とする。

図11-1-1 定着と継手

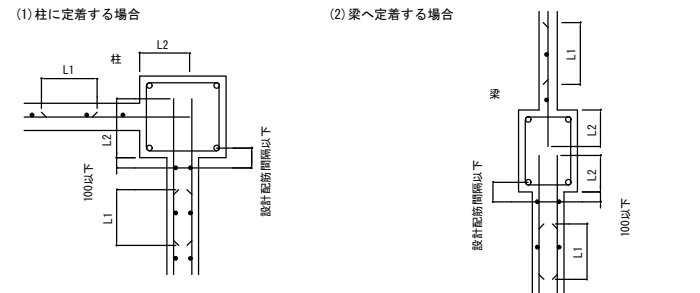


図11-1-2 帯筋、あばら筋内に配置する壁筋の定着方法

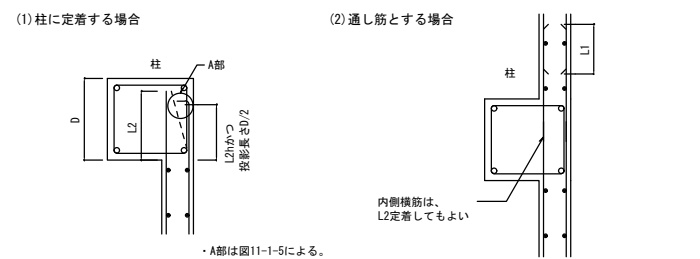
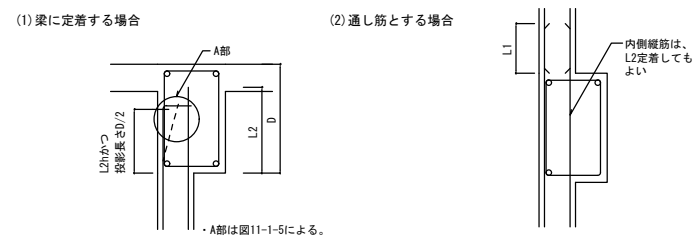
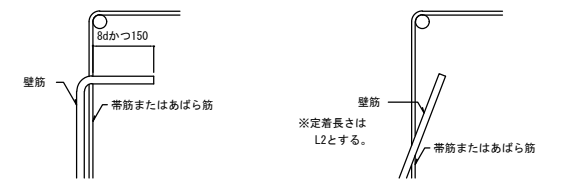


図11-1-3 柱主筋の外側を通る壁横筋の柱への定着方法



- 先端90°フックとする場合
- 先端を斜めに折り曲げる場合

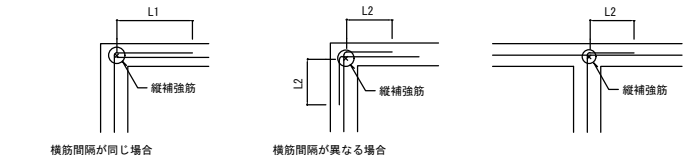


- 壁筋が帯筋・あばら筋から離れた位置となる場合は、90°フックの余長部分を8dかつ150以上、帯筋あばら筋内に定着する。

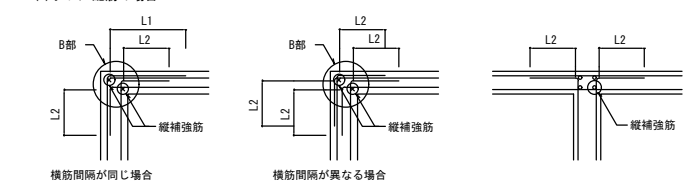
11-2 壁と壁・スラブとのおさまり

- 縦補強筋は、D13以上かつ壁縦筋最大径以上とする。
- 横補強筋は、D13以上かつ壁横筋最大径以上とする。

(1) シングル配筋の場合



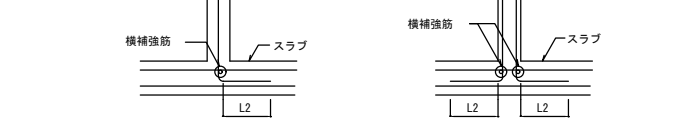
(2) ダブル配筋の場合



(3) 壁交差部 (B部) の縦補強筋配筋要領



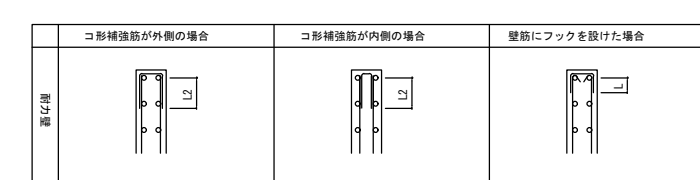
(1) 壁脚部



(2) 壁頂部



11-3 壁端部・開口部小口補強



- (注) 1. 耐力壁の場合、コ形補強筋は壁筋と同径・同間隔とする。
2. L寸法は構造図による。構造図に記載のない場合は15dとする。
3. 壁筋にフックを設けた壁で、壁厚が250mm以下の場合、開口部小口補強は省略することができる。

年度	令和7年度	
施設名	野幌森林公園	
工事名	北海道百年記念広場 モニュメント設置工事測量設計等委託業務	
図面名	モニュメント配筋標準図 (9)	
縮尺	—(A3)	図面番号 87葉の内31号
設計会社	株式会社 コンストラクションサポート藤井	令和 8年 3月
請負者		
発注者	北海道環境生活部文化局文化振興課	

11-4 地下外壁

1. 地下外壁壁筋の定着は、図11-4-1、図11-4-2、図11-4-3、図11-4-4による。
2. 地下外壁の壁筋の継手は、地下外壁内とし、柱・梁に設けない。(図11-4-5)
3. e1は壁外面と柱外面のずれ、e2は壁外面と梁外面のずれを示し、e1、e2寸法は構造図による。
4. 土に接する側の縦筋・横筋は原則として柱・梁主筋の外側を通す。

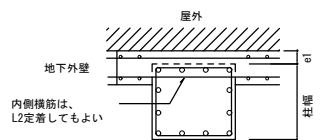


図11-4-1 柱とのおさまり

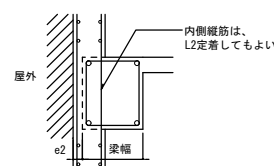


図11-4-2 梁とのおさまり

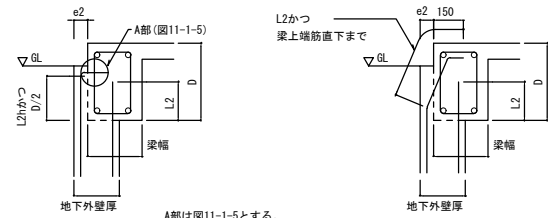


図11-4-3 壁上部のおさまり

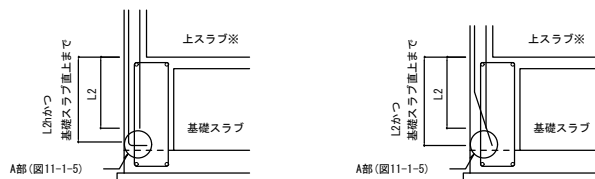


図11-4-4 地下外壁と基礎梁の接合部のおさまり

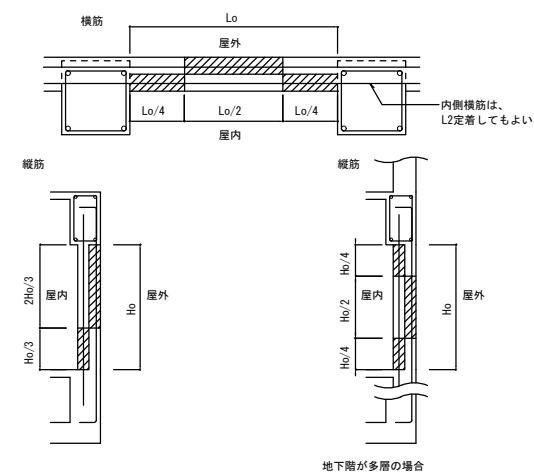


図11-4-5 継手位置

9 12 開口補強

12-1 スラブおよび非耐力壁

1. 一辺の最大寸法が700mm以下の開口に対するスラブ補強は、図12-1-1による。
2. 開口が連続するスラブの場合および片持ちスラブに開口を設ける場合の補強は構造図による。
3. スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下の場合、鉄筋を1/6以下の勾配で曲げること、または50mm以下でずらすことにより補強筋を省略することができる。ただし、開口部から設計かぶり確保すること。
4. 一辺の最大寸法が700mm以下の開口に対する非耐力壁の内壁の開口補強は、図12-1-2による。
5. 耐力壁、非耐力壁の外壁および開口が連続する壁の場合の開口補強は構造図による。
6. 壁開口、スラブ開口が柱または梁に接する場合、接する柱・梁の部分には補強筋を省略できる。(図12-1-4、図12-1-5)
7. 壁開口の最大径が両方向の配筋間隔以下の場合、鉄筋を1/6以下の勾配で曲げること、または50mm以下でずらすことにより補強筋を省略することができる。ただし、開口部から設計かぶり確保すること。

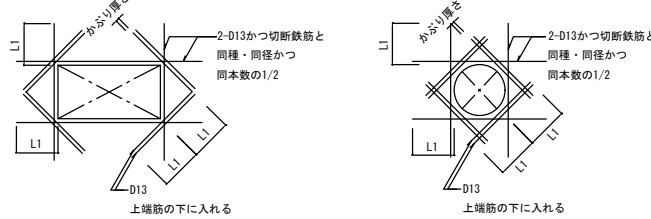


図12-1-1 スラブ開口補強

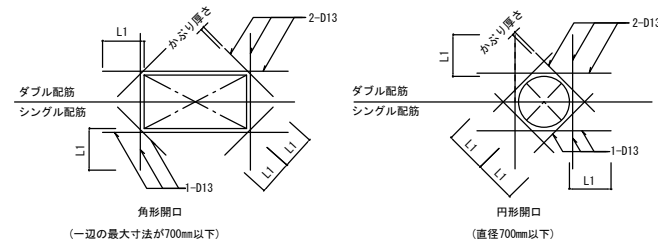


図12-1-2 非耐力壁の内壁開口補強

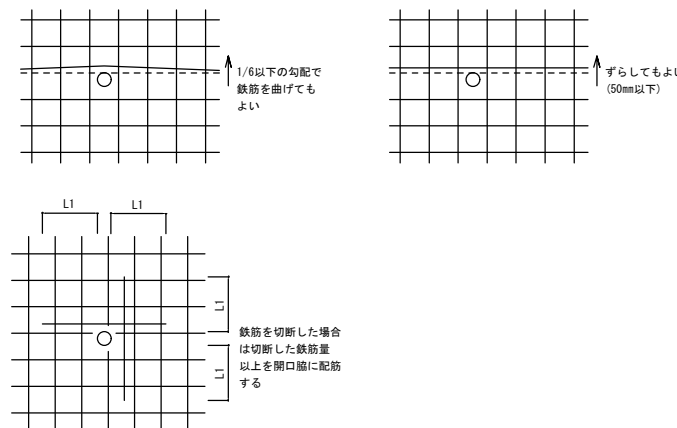


図12-1-3 単独円形小開口の配筋要領

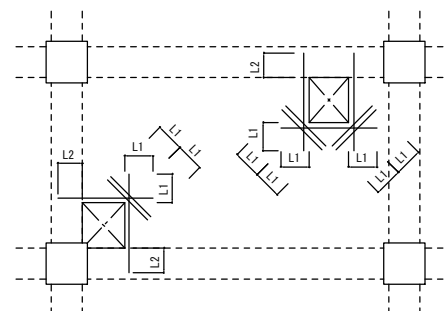


図12-1-4 スラブ開口部が柱または梁に接する場合の配筋要領

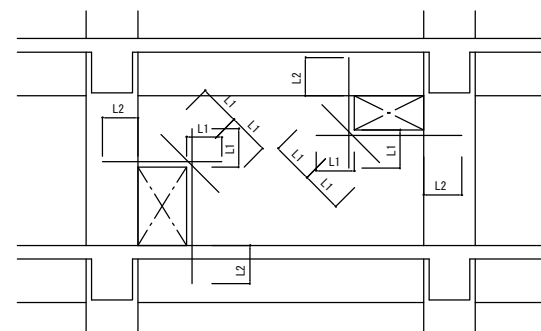


図12-1-5 壁開口部が柱または梁に接する場合の配筋要領

【付加】 12-2 スラブ開口部の補強 (700超)

スラブ開口部の補強は詳細図による。詳細図がなければ次による。

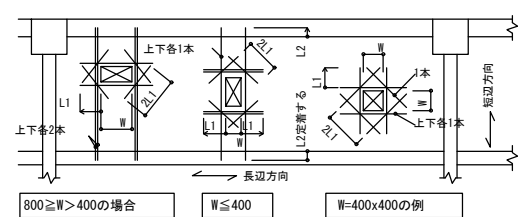


図12-2-1 スラブ開口部補強

1. 開口の最大寸法Wが200以下の場合には補強筋不要とする。ただし、開口間隔は、3x(隣接する開口寸法の平均)以上を原則とする。開口間隔がこれ以下の場合には、全体を1つの開口として補強筋を設け、個々の開口についても補強筋を設ける。
2. 開口の最大寸法Wが1000を超える場合は、監理者と協議の上補強する。
3. 開口の最大寸法Wが400を超える場合、短辺方向補強筋は梁内にL2定着する。
4. 補強筋表
(t≦200の場合は下表とし、t>200の場合は監理者と協議する。)

開口の大きさ	短長辺方向補強筋	斜め補強筋
開口の最大寸法 W ≦ 400	上下各1-D13	1-D13
開口の最大寸法 W ≦ 800	上下各2-D13	1-D13
開口の最大寸法 W ≦ 1000	上下各4-D13	1-D13

5. 床スラブ筋がφ16以上の場合補強筋は床スラブ筋と同径筋を使用する。
6. □形幅止め筋は床スラブ筋と同径・同間隔とする。

【付加】 12-3 壁開口部の補強

1. 壁開口部の補強筋は壁断面表による。

壁の開口補強要領は図12-3-1及び図12-3-2による。

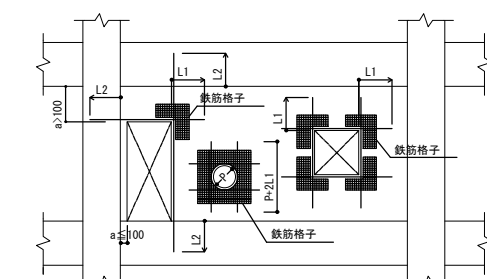


図12-3-1 壁の開口補強要領 (鉄筋格子の場合)

1. 壁厚200以下の壁開口に適用する。
2. 開口最大寸法が200以下の場合には補強筋不要。
3. a寸法が100以下の場合には補強筋不要。
4. 補強筋は壁断面表による。
5. 補強筋は規定壁配筋以外に入れる。
6. 開口ピッチは、3x(隣接する開口寸法の平均)以上を原則とする。
7. 開口高さが階高の0.4倍を超える場合、縦補強筋は梁内にL2定着する。

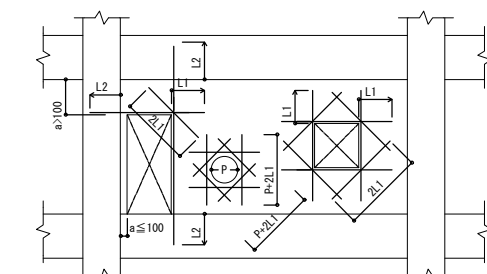


図12-3-2 壁の開口補強要領 (鉄筋の場合)

1. 壁厚200を超える壁開口に適用する。
2. 開口最大寸法が200以下の場合には補強筋不要。
3. a寸法が100以下の場合には補強筋不要。
4. 補強筋は壁断面表による。
5. 補強筋は規定壁配筋以外に入れる。
6. 開口ピッチは、3x(隣接する開口寸法の平均)以上を原則とする。
7. 開口高さが階高の0.4倍を超える場合、縦補強筋は梁内にL2定着する。

2. 設備開口の補強要領は図12-3-3による。

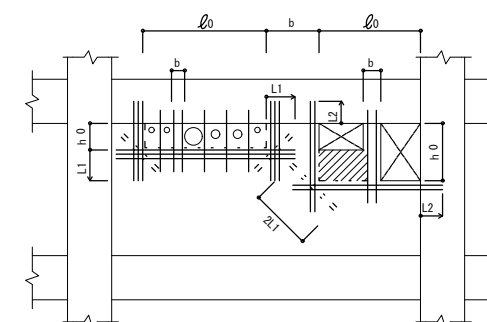


図12-3-3 壁の設備開口補強要領

1. φ0 h0寸法を開口寸法とし、補強筋は壁断面表による。ただし壁厚200以下の場合には、鉄筋格子による補強とせず壁断面表に示す縦・横補強筋を50%増とする。
2. b寸法500以上の場合は別開口として、個別に開口補強を行う。b寸法500未満の場合は、必要なかぶりを確保の上、規定の壁筋と同径筋をφ150以下で配筋する。
3. 印部分は規定の壁配筋を行う。
4. 補強筋の定着要領は図12-3-1及び図12-3-2による。

年度	令和7年度	
施設名	野幌森林公園	
工事名	北海道百年記念広場モニュメント設置工事測量設計等委託業務	
図面名	モニュメント配筋標準図(10)	
縮尺	—(A3)	図面番号 87葉の内32号
設計会社	株式会社 コンストラクションサポート藤井	令和 8年 3月
請負者		
発注者	北海道環境生活部文化局文化振興課	

§13 柱・梁・壁・スラブ打増し部配筋要領

1. 構造図に記載のない打増しを行う場合は事前に監理者と協議すること。
2. 柱・梁の打増し部に耐力壁が取り付く場合の打増し配筋要領は構造図による。
3. 打増し寸法a, a1, a2が70mm未満の場合は補強筋不要とする。
打増し寸法a, a1, a2が70mm≦a≦200mmの場合の打増し部補強要領は図13-1-1、図13-3-2による。
4. 打増し寸法a, a1, a2が200mmを超える場合の打増し部詳細事項は構造図による。
5. 打増し部は打増しコンクリートを示す。
6. ※部の打増し補強筋の定着長さについては、監理者に確認すること。

13-1 柱

1. 梁、耐力壁およびスラブの鉄筋の定着長さは、柱体内で確保し、打増し部は定着長さに算定しない。
2. 柱の打増し部配筋要領は表13-1、図13-1-1、図13-1-2による。

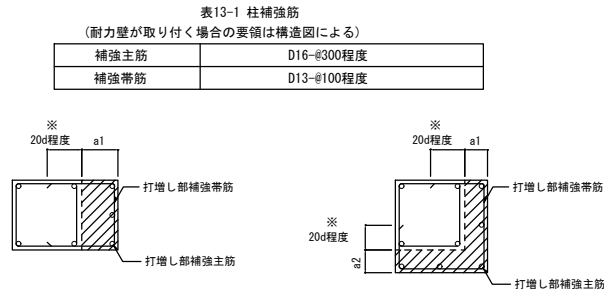


図13-1-1 柱の打増し要領

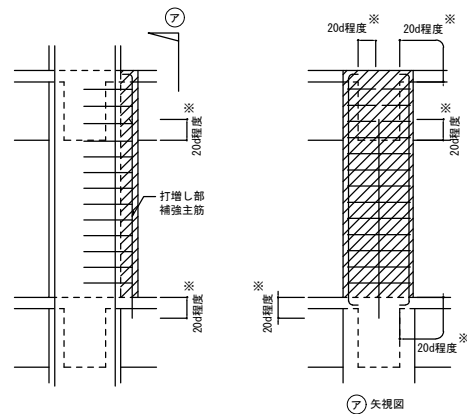


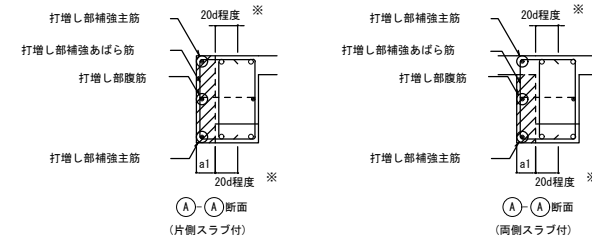
図13-1-2 柱打増し部の補強主筋の定着

13-2 梁

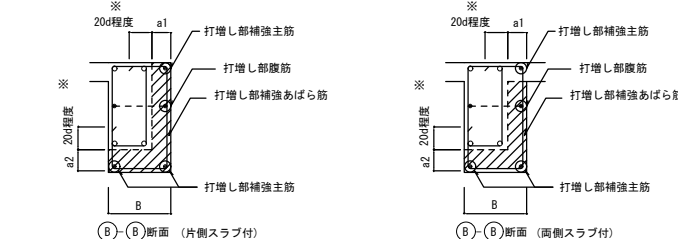
1. 小梁・耐力壁およびスラブの鉄筋の定着長さは、梁体内で確保し、打増し部は定着長さに算定しない。
2. 梁の打増し部配筋要領は表13-2-1、表13-2-2、図13-2-1による。
3. 打増し部腹筋は梁と同径・同間隔とする。

表13-2-1 梁側面補強筋 (耐力壁が取り付く場合の要領は構造図による)		表13-2-2 梁上下面補強筋 (耐力壁・スラブが取り付く場合の要領は構造図による)	
補強主筋	D16	梁幅 B≦350mm	350mm<B
補強あばら筋	梁あばら筋と同径、 間隔200mm以下	補強主筋 2-D16	D16-@250以下
		補強あばら筋	梁あばら筋と同径、間隔200mm以下

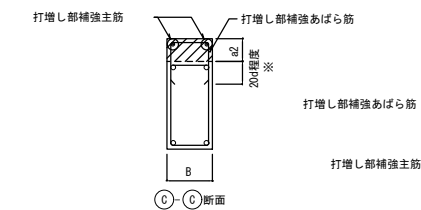
(1) 梁側面を打増しする場合



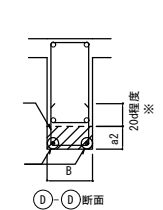
(2) 梁側面および梁下面を打増しする場合



(3) 梁上面を打増しする場合(スラブなし)

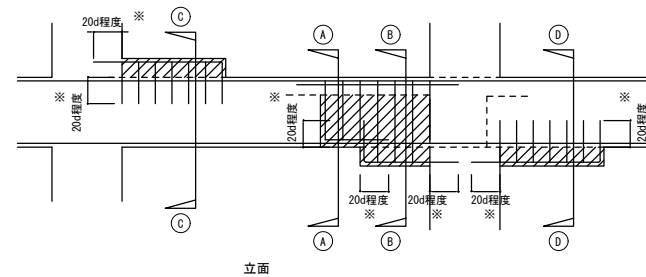


(4) 梁下面を打増しする場合



・スラブが取付く場合は図10-3-2、図10-3-3を参照。

図13-2-1 梁の打増し要領



立面

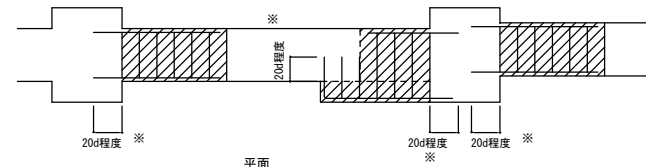


図13-2-2 梁打増し部の補強主筋の定着

13-3 壁・スラブ

1. 壁およびスラブの打増し部配筋要領は図13-3-1、図13-3-2による。

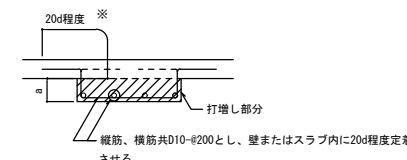


図13-3-1 壁の打増し要領

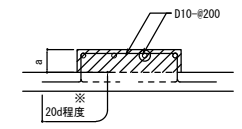
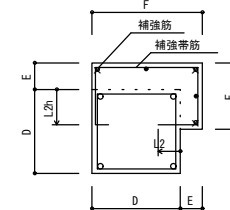


図13-3-2 スラブの打増し要領

[付加] 13-4 柱の打増し補強(打増し寸法200超)

柱の打増し補強筋は図13-4-1による。
なお、梁、壁及びスラブの鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。



打増し寸法	補強筋	打増し寸法	補強筋
200<F≦300	2-D16	200<E≦300	1-D16
300<F≦600	3-D16	300<E≦600	2-D16

- (注) 1. 打増し部分が70未満の場合は補強筋不要。ただし、70未満の打増し部分に壁が取り付く場合は図13-4-2によるものとし、壁筋(縦筋、横筋共)を延長して補強筋とする。
2. 補強帯筋は、柱帯筋と同径・同間隔とする。
3. 補強筋の定着は原則としてL2とする。
4. 1.~3.の場合、壁筋がD19以上の場合は補強筋は上表にかかわらず壁筋と同径筋を使用する。
5. ※ 印筋は打増し寸法E及び打増し寸法Fで決まる補強筋を兼ねるものとする。

図13-4-1 柱の打増し

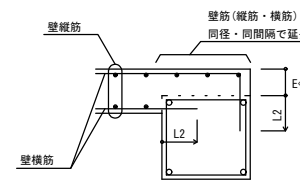
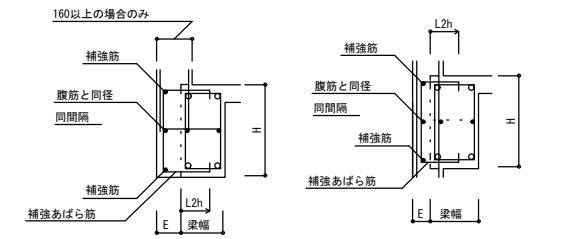


図13-4-2 柱の打増し(70未満で壁と取合う場合)

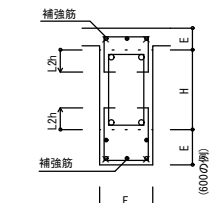
[付加] 13-5 梁の打増し補強(打増し寸法200超)

梁の打増し補強筋は図13-5-1による。
なお、小梁、壁及びスラブの鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。

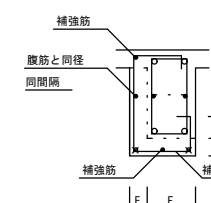


梁側面に壁の付く場合

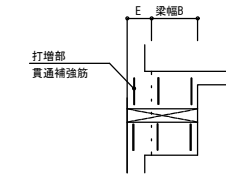
梁側面上下に壁の付く場合



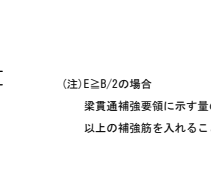
梁上下の打増し



二方向の打増し



梁貫通部側面に打増しがある場合



(注) E≧B/2の場合
梁貫通補強要領に示す量の1/2以上の補強筋を入れること。

打増し寸法	補強筋	打増し寸法	補強筋
200<F≦300	2-D16	200<E≦300	1-D16
300<F≦600	3-D16	300<E≦600	2-D16

- (注) 1. 打増し部分が70未満の場合は補強筋不要。ただし、70未満の打増し部分に壁が取り付く場合は、壁筋(縦筋、横筋共)を延長して補強筋とする。
2. 補強あばら筋は、梁あばら筋と同径・同間隔とする。
3. 補強筋の定着は原則としてL2とする。
4. 1.~3.の場合、壁筋がD19以上の場合は補強筋は上表にかかわらず壁筋と同径筋を使用する。
5. ※ 印筋は打増し寸法E及び打増し寸法Fで決まる補強筋を兼ねるものとする。

図13-5-1 梁の打増し補強配筋要領

年度	令和7年度	
施設名	野幌森林公園	
工事名	北海道百年記念広場 モニュメント設置工事測量設計等委託業務	
図面名	モニュメント配筋標準図(11)	
縮尺	—(A3)	図面番号 87葉の内33号
設計会社	株式会社 コンストラクションサポート藤井	令和 8年 3月
請負者		
発注者	北海道環境生活部文化局文化振興課	

§ 14. 階段の配筋

14-1 片持スラブ形階段 (KA型)

片持スラブ形階段の基準配筋は図14-1により、寸法及び配筋種別は記入による。

(注) 1. 階段主筋は、壁の中心線を超えてから下向きに定着する。
2. 段形筋のスラブへの定着の長さは、150mmとする。
3. 片持ちスラブ形階段で壁厚が250未満の場合は、壁配筋表にかかわらず*印筋(縦筋)は、断面表に示す縦筋以上かつD13 @200以上の配筋とする。
※ L2hを確保できない場合は、§ 3-2定着によることできる。

階段記号	形状種別	厚さ		配筋			片持長さ
		t1	t2	主筋 A	主筋 B	副筋	
K1	KA	150	150	D13 @200	1-D13	D13 @200	ℓ ≤ 1500

図14-1 片持スラブ形階段配筋の定着

14-2 一方向スラブ形階段 (KB型)

一方向スラブ形階段の基準配筋は図14-2により、寸法及び配筋種別は記入による。

(注) ※ L2hを確保できない場合は、§ 3-2定着によることできる。

階段記号	形状種別	厚さ t	配筋		備考
			主筋	副筋	
KB1	KB	220	D16@100ダブル	D13@100ダブル	

図14-2 一方向スラブ形階段配筋

§ 15. 梁貫通孔その他の配筋

15-1 梁貫通孔

(a) 梁貫通孔は、次による。
(1) 梁貫通孔補強筋の名称等は、図15-1による。
(2) 孔の径及び間隔は、以下による。孔が円形でない場合はこれの外接円とする。
1. 貫通孔径Cは、
(RCの場合) 大梁 $C \leq D/5$ 小梁 $C \leq D/4$
(SRCの場合) $C \leq D/3$ かつ 鉄骨せい $H_s/2$
とし、設計図に示されない箇所については監理者の指示に従う。
2. 貫通孔の中心間隔は、
(RCの場合) $4 \times$ (隣接する貫通孔径の平均) かつ 500以上
(SRCの場合) $3 \times$ (隣接する貫通孔径の平均) かつ 500以上を原則とする。
(3) 孔の上下方向の位置の限度は、
(RCの場合) $H_o \geq 250$
(SRCの場合) $H_o \geq 250$ かつ $H_1, H_2 \geq 100$ を満たすこと。
(4) 孔の中心位置の限度は、柱及び直交する梁(小梁)の面から、原則として $1.2D$ (Dは梁せい)以上離す。
(5) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。(≠100)
(6) 補強筋は主筋の内側とする。やむを得ない場合は、監理者の承認を受けて外側とすることができる。また、鉄筋の定着長さは、図7.3による。
(7) 孔の径が100mm以下のものは、補強を省略することができる。

図15-1 梁貫通孔補強筋の名称等

図15-2 孔の上下方向の位置の限度

図15-3 補強筋の定着長さ

(b) 梁貫通孔の補強形式は表15-1。
(1) 表15-1の標準補強は前記15-1(a)の条件のもとで算定したものであり、現場施工に当たってはシャースパン比ℓ/2dを考慮し、終局耐力計算書を作成のうえ監理者の承認を得ること。
(2) あばら筋がφ16以上の時は、縦補強筋をあばら筋と同径とする。
(3) 防火区画に位置する貫通スリーブは鋼管 (STK400) とする。
(4) RC用スリーブは硬質塩ビ管とする。
(5) 上記の他、貫通孔の水処理は設備工事施工管理要領による。
(6) 基礎梁用の欄にない貫通孔径の補強筋は大梁用と同じとする。
(7) 土に接する梁の貫通スリーブはステンレス製(つば付)とする。
(8) 縦補強筋の一巻とは、梁断面に示すあばら筋形状を一巻とみなす。
(9) 既製の補強筋を用いる場合には、監理者の承認を得ること。ただし、孔径が200mmを超える場合は上縦筋および、下縦筋を省略しないこと。

表15-1 梁貫通孔の補強

貫通孔径 D(mm)	タイプ1			SRC (STK400) 貫通スリーブ (mm)	備考
	縦補強筋	横補強筋	斜め補強筋		
100φ以下	—	—	—	—	
125φ	1巻-D13	各2-D13	各2-D13	—	
150φ	2巻-D13	各2-D13	各2-D16	—	
175φ	2巻-D13	各2-D13	各2-D16	190.7φx5.3	
200φ	2巻-D13	各2-D13	各2-D19	216.3φx5.8	
250φ	2巻-D13	各2-D16	各2-D19	267.4φx6.6	
300φ	2巻-D13	各2-D16	各2-D25	318.5φx7.9	
350φ	2巻-D13	各2-D16	各2-D25	355.6φx7.9	

表15-2 設備貫通個数表 (電気及び空調衛生用貫通孔)

梁構造	寸法	円形 (φ)				矩形 (m以下)			
		125φ	175φ	250φ	300φ				
基礎梁									
RC梁									
SRC梁									
S梁									
壁厚	寸法								
壁貫通孔									
床スラブ厚	寸法								
貫通孔	150~250								

(注) 1. 設計図図示 (ビット平面図、鉄骨梁伏図等) 以外に上表の数量を見込むこと。上表には建築用開口及び基礎梁排水用貫通等の個数は含まれていない。これらの位置及び個数は意匠図による。
2. 壁スラブの貫通孔で鉄筋を切断しない場合は、開口補強筋は不要。
3. 貫通孔を設ける部位には各要領図に従い開口補強を設ける。
(c) S梁の貫通要領は下記による。

・柱端部ブラケット範囲及びその継手区間 (*) は梁貫通は原則として不可とする。
・補強図示のないS梁の梁貫通については貫通補強は不要とする。

§ 16. 基礎梁の補強

(注) 1. この項で扱う基礎梁の水平ハンチとは基礎梁断面表に特記がなく伏図のみに示される水平ハンチをいう。
2. 水平ハンチ部の腹筋及び補強あばら筋はX・Y方向基礎梁の規定鉄筋の大きい方と同径・同間隔とする。
3. φ1が200以下の場合は補強筋不要。

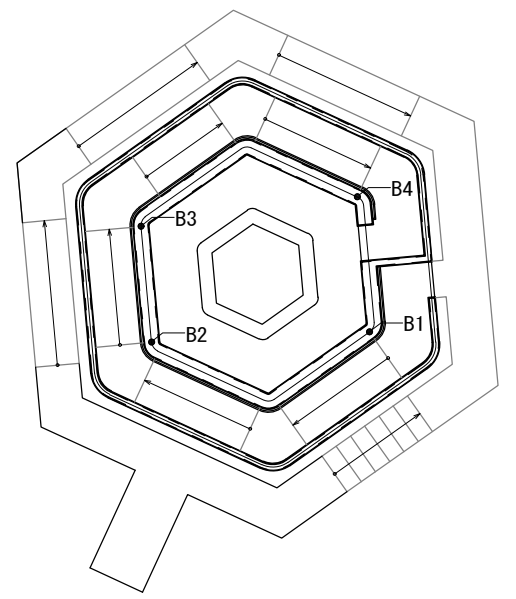
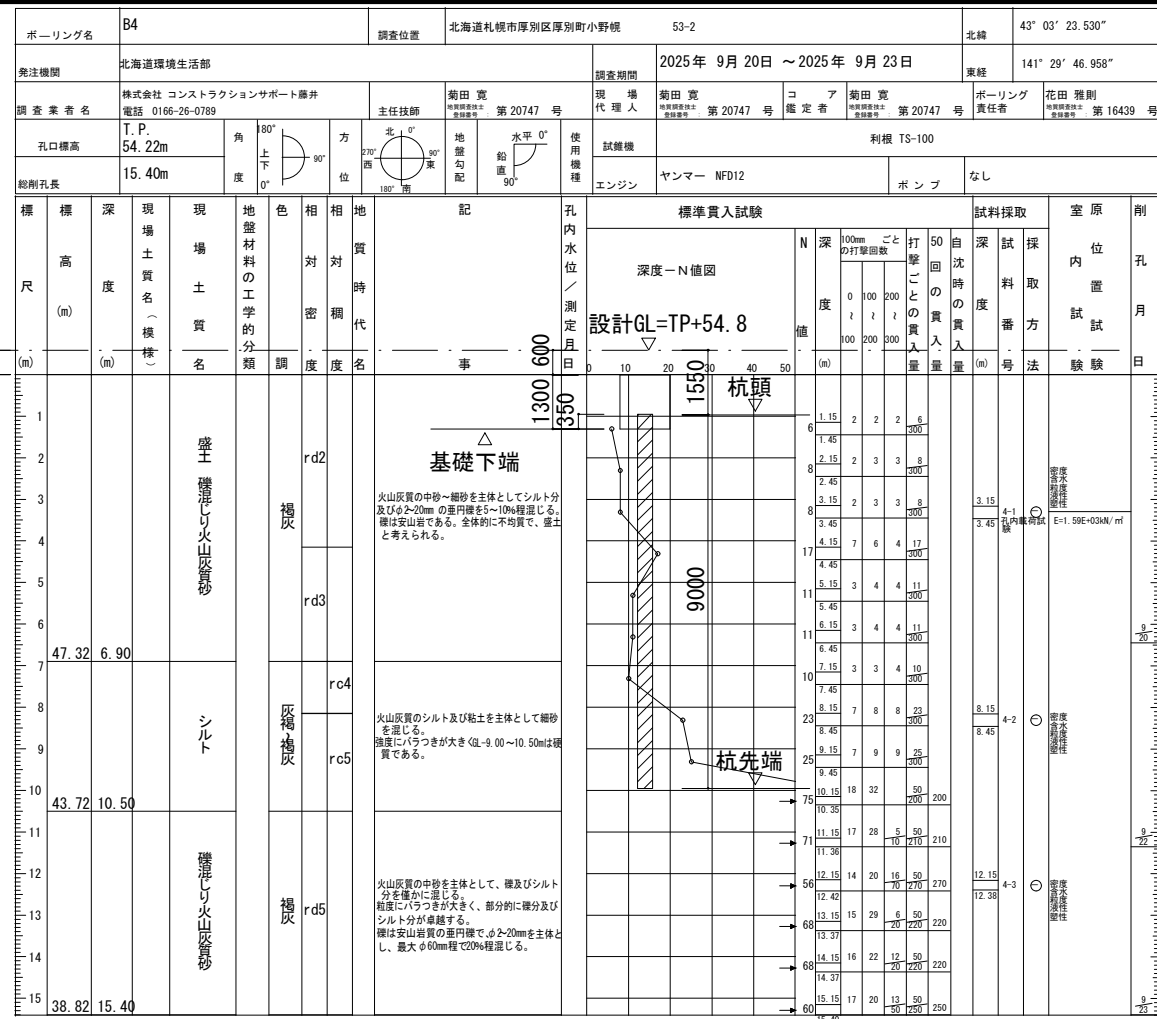
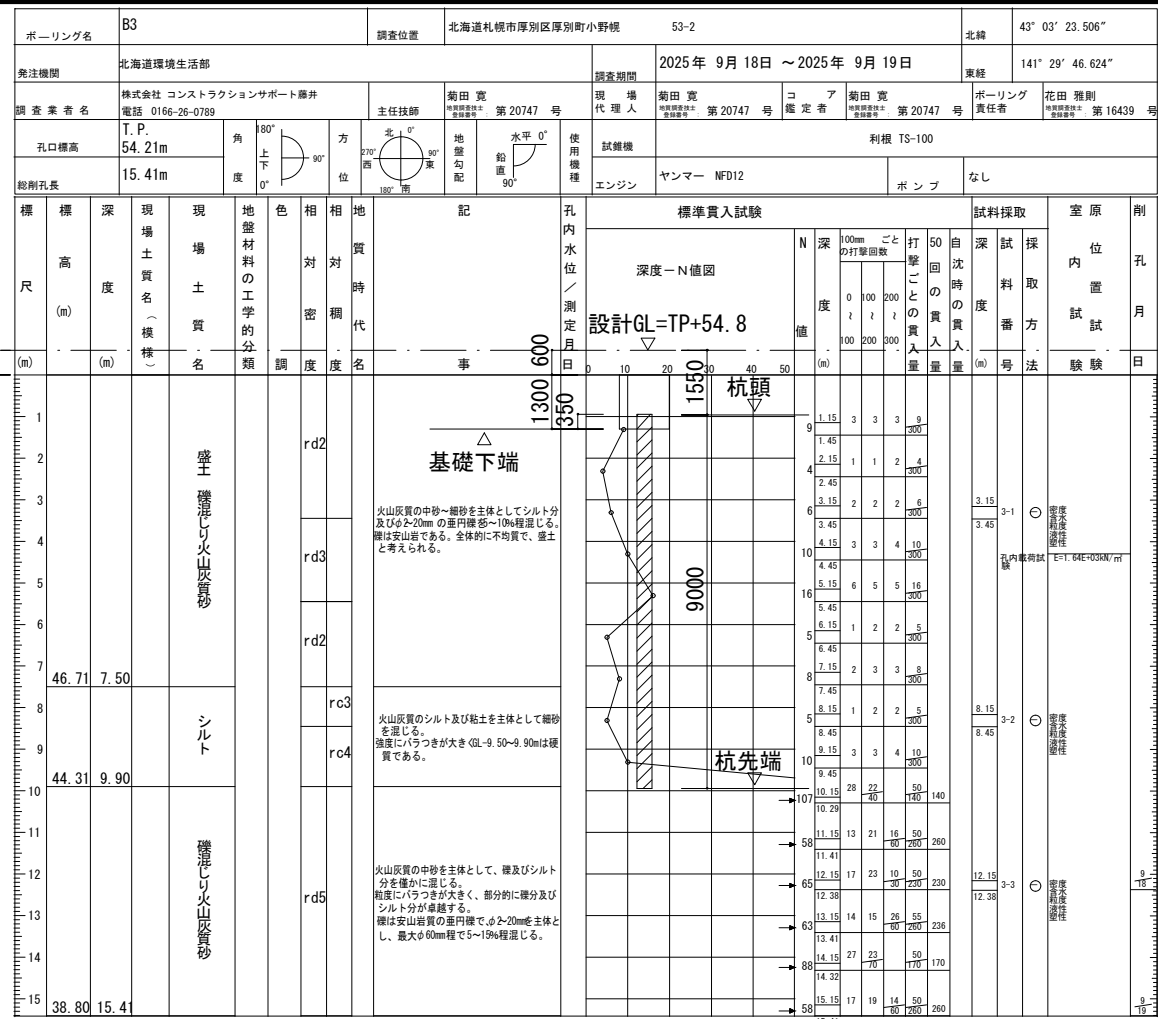
基礎梁水平ハンチ部の補強要領

柱幅が梁幅よりも小さい場合の補強要領

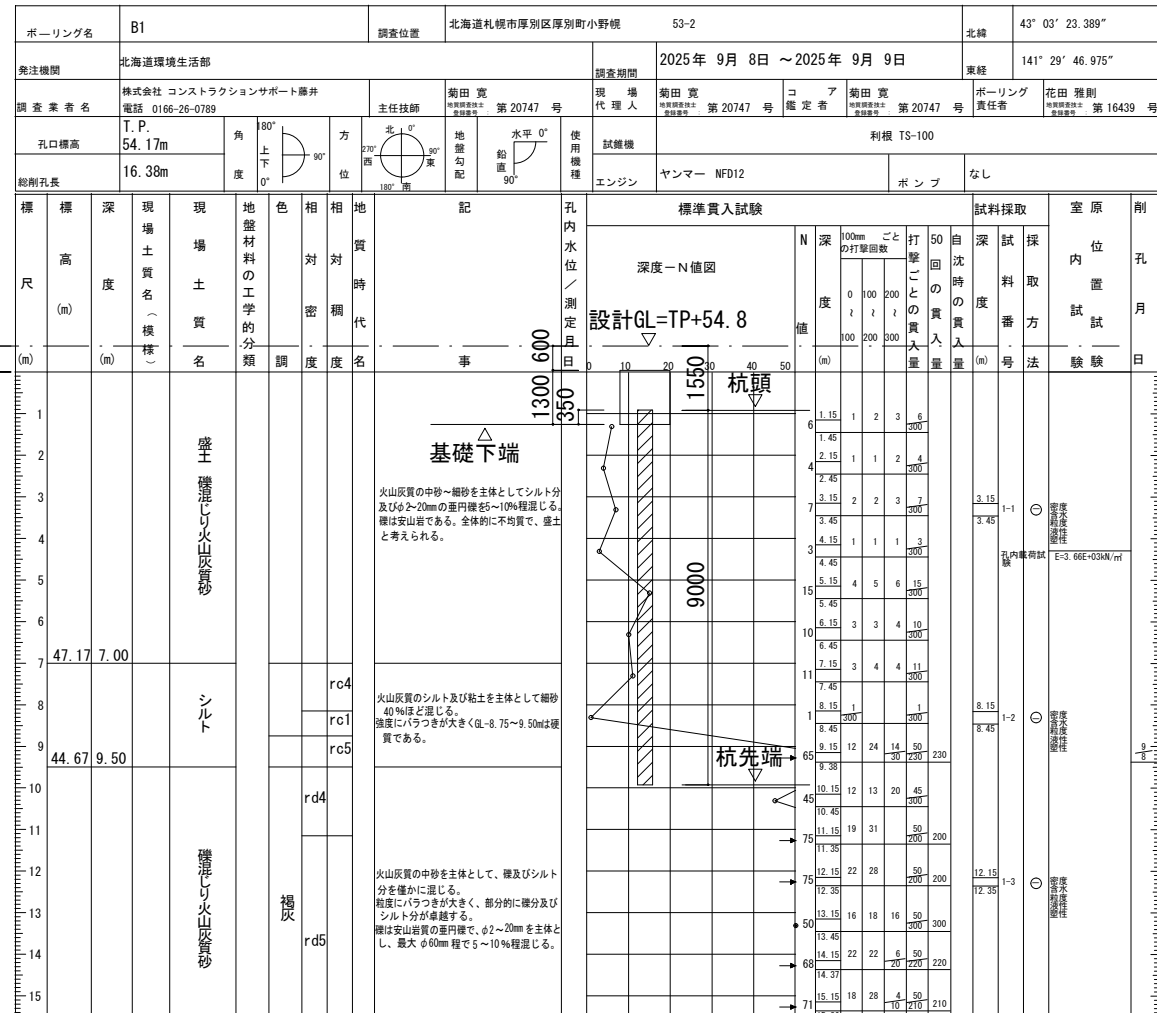
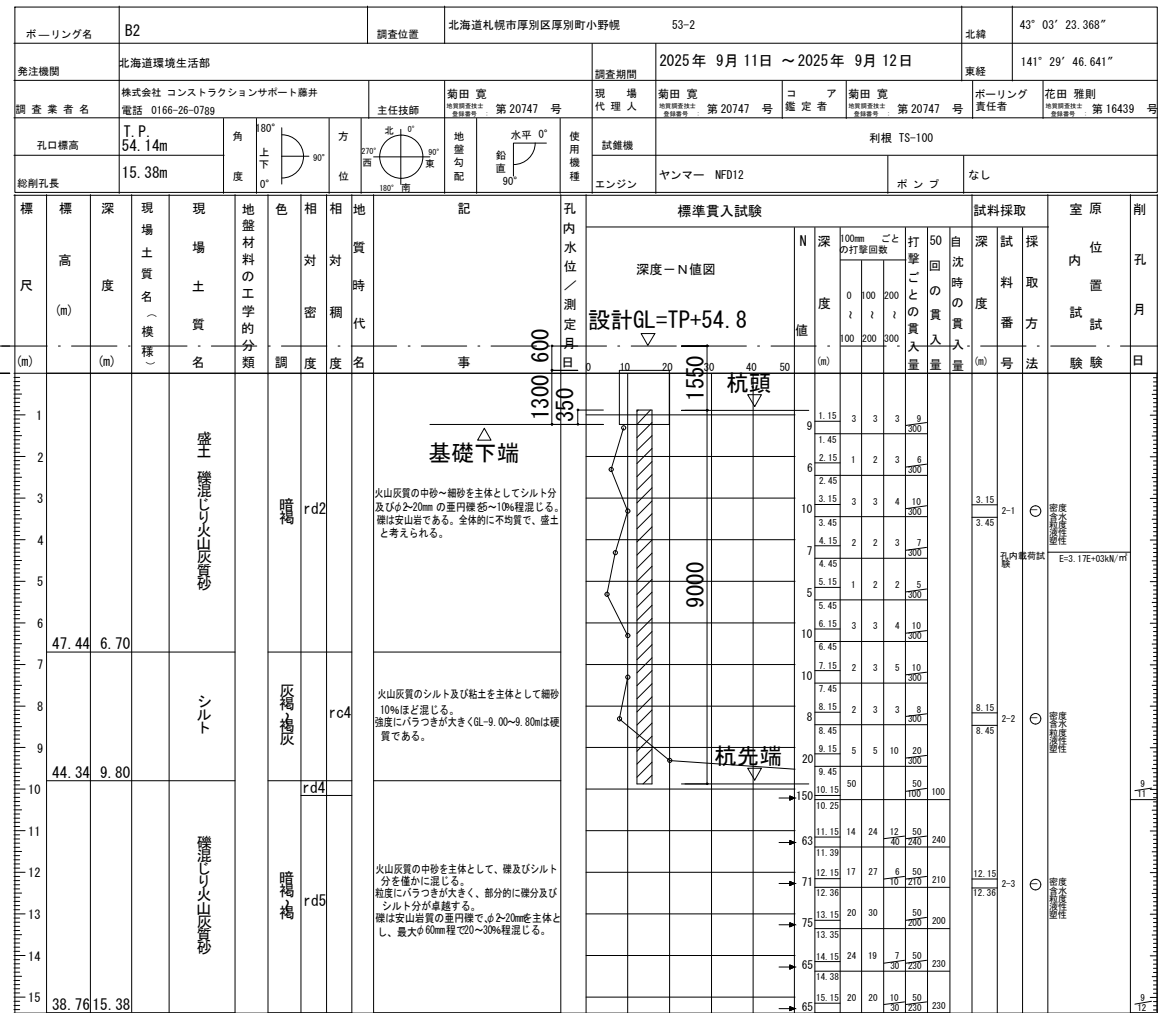
(注) 1. X・Y両方向の梁幅 > 柱幅に適用する。
2. 柱を梁に定着する考えとする。
3. あばら筋は、X方向梁幅とY方向梁幅の大きい方を優先させる。
4. 梁内の柱帯筋は、不要。但し、隅柱、側柱には補強筋(ロ)を帯筋と同径とし1.5倍間隔を入れる。柱幅内のあばら筋間隔は、規定のあばら筋間隔の1.5倍とする。
5. 補強筋(イ)は、同方向側梁あばら筋と同径・同間隔とする。

柱幅が梁幅よりも小さい場合の補強要領

年度	令和7年度	
施設名	野幌森林公園	
工事名	北海道百年記念広場モニュメント設置工事測量設計等委託業務	
図面名	モニュメント配筋標準図 付加	
縮尺	—(A3)	図面番号 87葉の内34号
設計会社	株式会社 コンストラクションサポート藤井	令和 8年 3月
請負者		
発注者	北海道環境生活部文化局文化振興課	



調査位置図



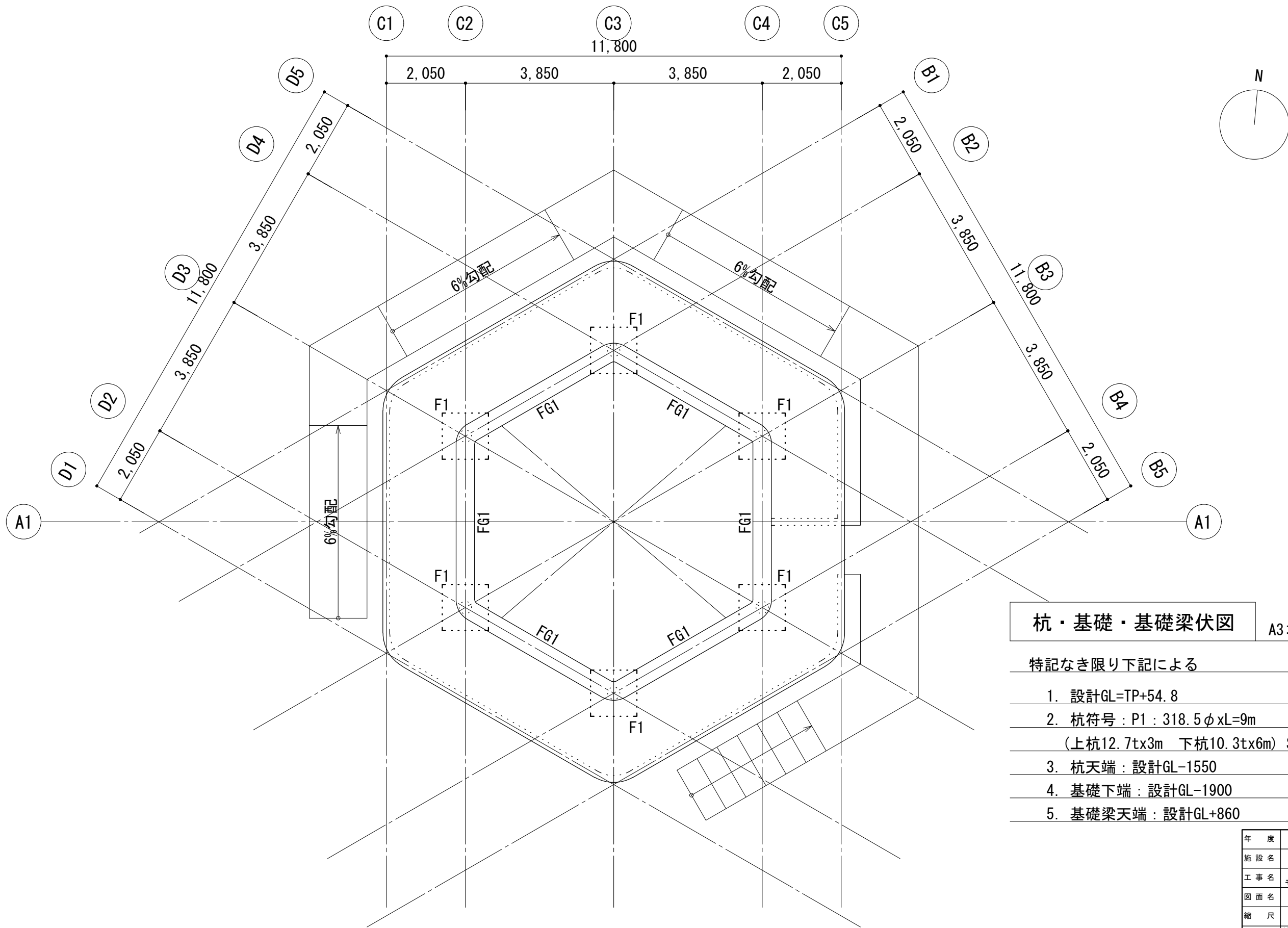
土質ボーリング柱状図 (標準貫入試験)

調査名 令和7年度 北海道百年記念広場モニュメント設置工事測量設計等委託業務

事業名または工事名 令和7年度 北海道百年記念広場モニュメント設置工事測量設計等委託業務

調査目的及び調査対象 都市計画 構造物基礎

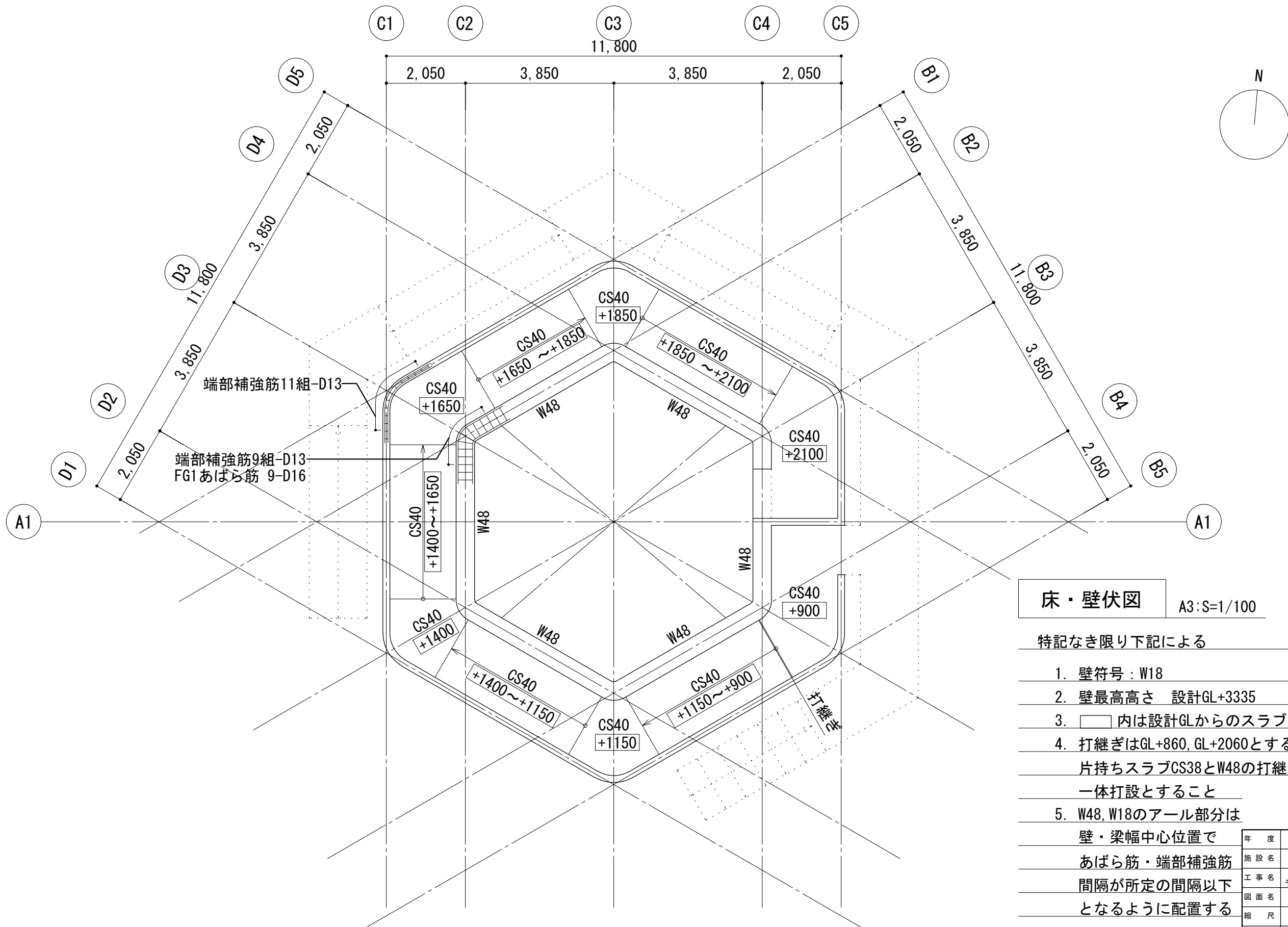
年度	令和7年度
施設名	野幌森林公園
工事名	北海道百年記念広場モニュメント設置工事測量設計等委託業務
図面名	土質柱状図
縮尺	1/100 (A3)
図面番号	87葉の内35号
設計会社	株式会社 コンストラクションサポート藤井
請負者	令和 8年 3月
発注者	北海道環境生活部文化局文化振興課



杭・基礎・基礎梁伏図 A3:S=1/100

- 特記なき限り下記による
1. 設計GL=TP+54.8
 2. 杭符号：P1：318.5φxL=9m
(上杭12.7tx3m 下杭10.3tx6m) STK490
 3. 杭天端：設計GL-1550
 4. 基礎下端：設計GL-1900
 5. 基礎梁天端：設計GL+860

年度	令和7年度		
施設名	野幌森林公園		
工事名	北海道百年記念広場 モニュメント設置工事測量設計等委託業務		
図面名	杭・基礎・基礎梁伏図		
縮尺	1/100 (A3)	図面番号	87葉の内36号
設計会社	株式会社 コンストラクションサポート	請負者	令和 8年 3月
発注者	北海道環境生活部文化局文化振興課		



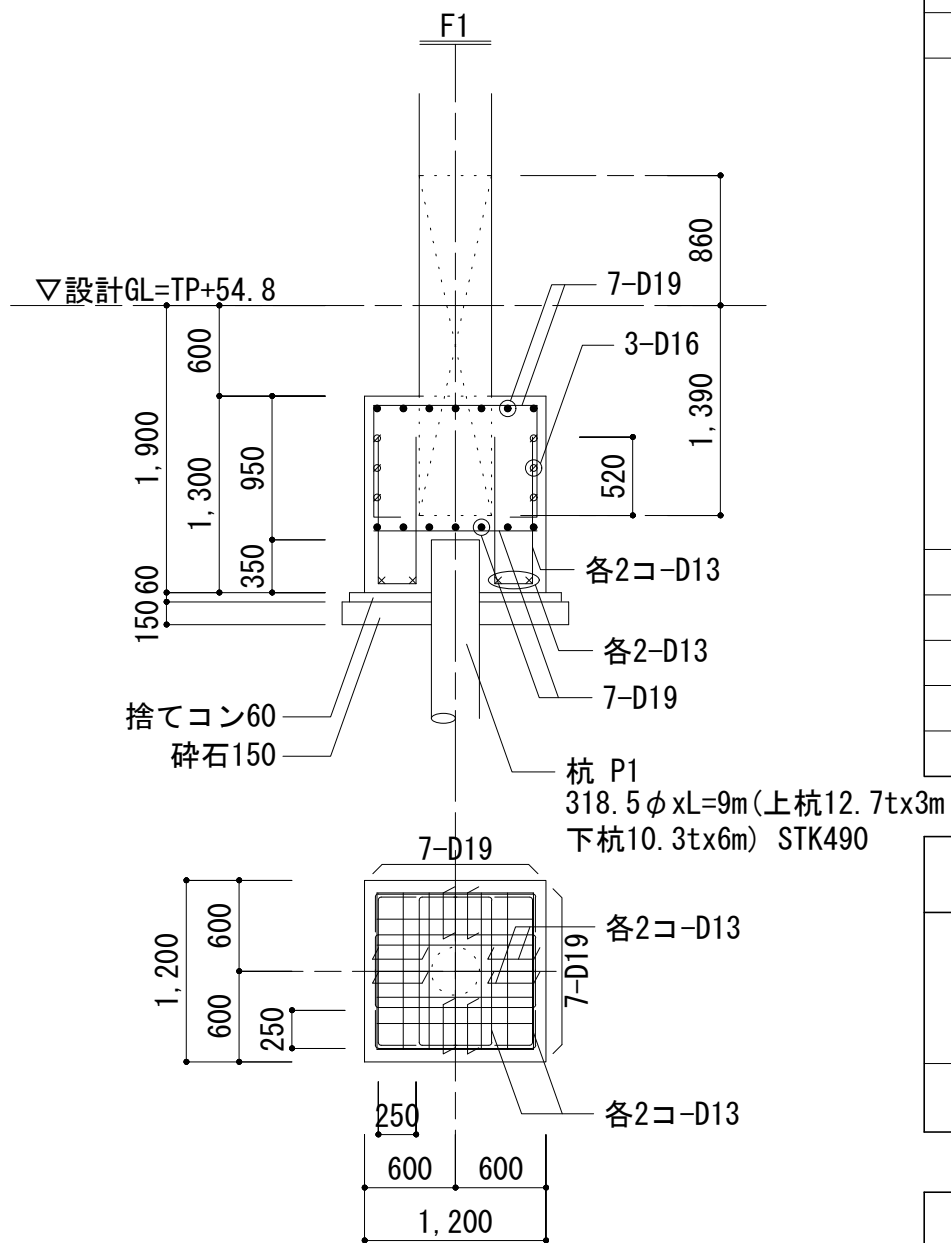
床・壁伏図 A3:S=1/100

特記なき限り下記による

1. 壁符号 : W18
2. 壁最高高さ 設計GL+3335
3. □内は設計GLからのスラブ上端レベルを示す
4. 打継ぎはGL+860, GL+2060とする。
片持ちスラブCS38とW48の打継ぎは不可とし、
一体打設とすること
5. W48, W18のアーチ部分は
壁・梁幅中心位置で
あばら筋・端部補強筋
間隔が所定の間隔以下
となるように配置する

年度	令和7年度	
施設名	野幌森林公園	
工事名	北海道百年記念広場 モニュメント設置工事測量設計等委託業務	
図面名	床・壁伏図	
縮尺	1/100 (A3)	図面番号 87葉の内37号
設計会社	株式会社 コンストラクションサポート	令和 8年 3月
請負者		
発注者	北海道環境生活部文化局文化振興課	

基礎詳細図 1/50



基礎梁断面表 1/50 注記) 記入なき限り下記による。 1. 幅止筋 D10@1000×1000

符号	FG1	共 通 事 項	
位置	全断面	特記なき限り下記による 配筋方法 B4, C2, D4通りの地中梁の上筋を外側へ、 下筋を内側に配筋する。	
断面			
上端筋	5-D19		
下端筋	5-D19		
あばら筋	2-D16@100		
腹筋	14-D16		
備考			

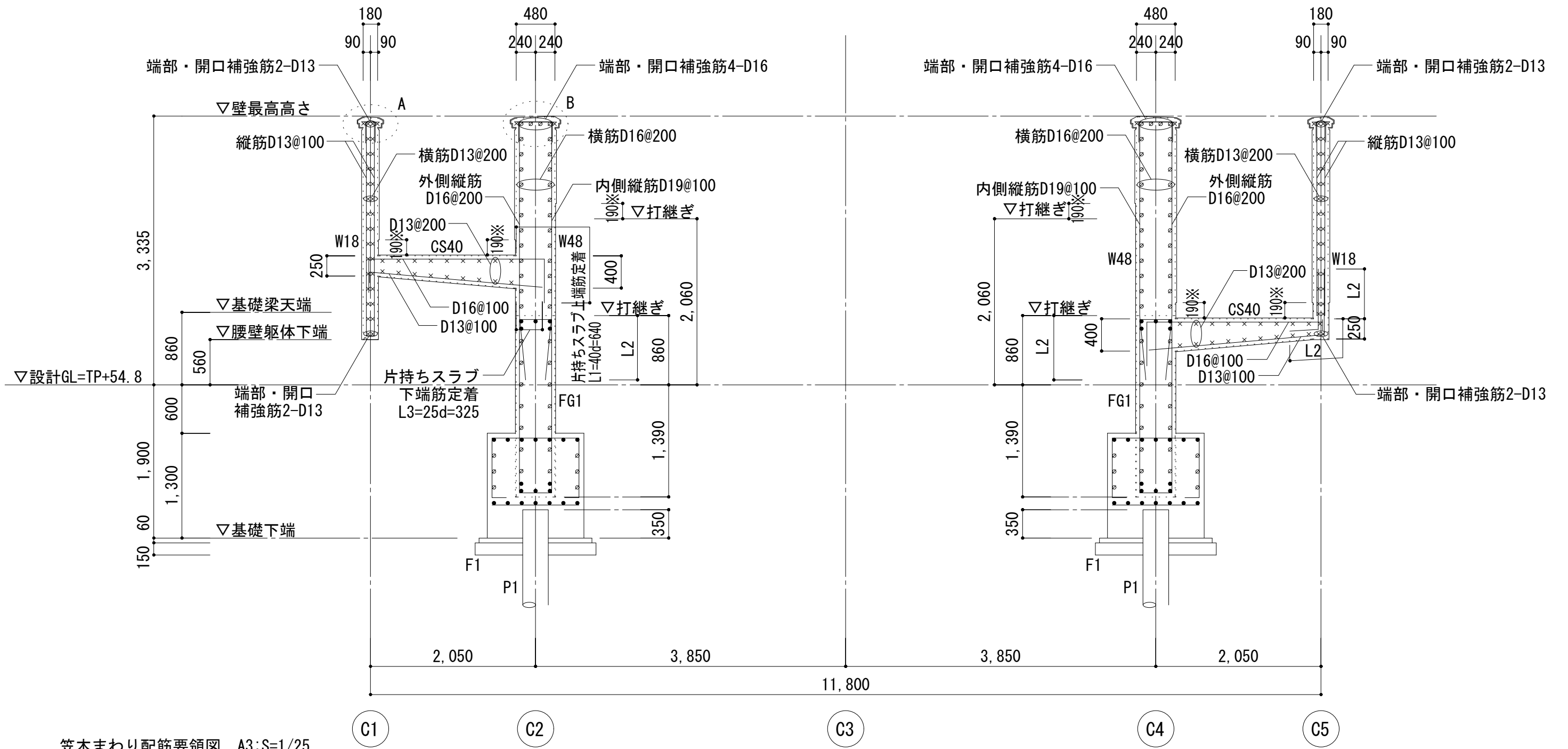
床スラブ断面表 注記) 記入なき限り下記による。 1. 幅止筋 D10@1000×1000

符号	厚さ	位置	短辺 (主筋方向)		長辺 (配力筋方向)		備 考
			端 部	中 央	端 部	中 央	
CS40	250~400	上	D16@100	D16@100	D13@200	D13@200	
		下	D13@100	D13@100	D13@200	D13@200	

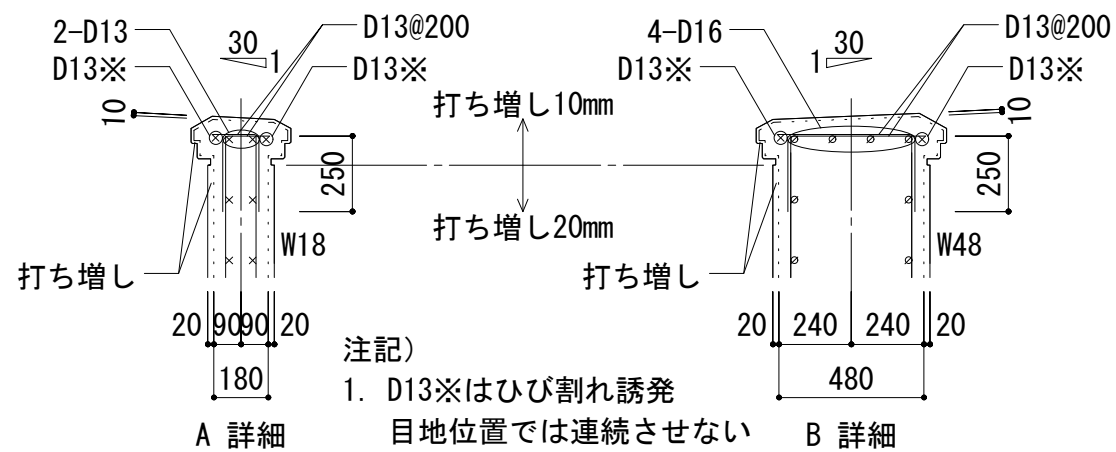
壁断面表 注記) 記入なき限り下記による。 1. 幅止筋 D10@1000×1000

壁符号	厚さ	壁配筋		端部・開口補強筋			備 考
		タテ筋	ヨコ筋	タテ筋	ヨコ筋	斜め筋	
W18	180	D13@100ダブル	D13@200ダブル	-	-	-	端部コの字補強筋D13@200
W48	480	外:D16@200 内:D16@100	D16@200ダブル	-	-	-	端部コの字補強筋D13@200

年 度	令和7年度		
施設名	野幌森林公園		
工事名	北海道百年記念広場 モニュメント設置工事測量設計等委託業務		
図面名	RC部材リスト		
縮 尺	1/50 (A3)	図面番号	87葉の内38号
設計会社	株式会社 コンストラクションサポート藤井		令和 8年 3月
請 負 者			
発 注 者	北海道環境生活部文化局文化振興課		



笠木まわり配筋要領図 A3:S=1/25



D3通り架構配筋要領図 A3:S=1/50

注記

1. 190※ は打ち増し10mmと20mmの切替位置を示す

年度	令和7年度	
施設名	野幌森林公園	
工事名	北海道百年記念広場 モニュメント設置工事測量設計等委託業務	
図面名	D3通り架構配筋要領図	
縮尺	1/25, 50 (A3)	図面番号 87葉の内39号
設計会社	株式会社 コンストラクションサポート藤井	令和 8年 3月
請負者		
発注者	北海道環境生活部文化局文化振興課	